

514  
200



始









574-200

帝國  
陸運車交通  
東十二傑  
傳



著者 寄贈本

大正  
3. 2. 25  
寄贈



稟告

曩に日露戦役殉國烈士忠魂録貳冊を

先帝陛下下 獻納して御嘉納の光榮を  
今上陛下下

有するを以て本書發刊の趣旨に基き再び特  
別製本貳冊を宮内省を經謹みて

天皇陛下下  
攝政宮殿下

奉獻して共に光榮に浴せんと欲す之れを諒  
とせられん事を

著者謹告



仙臺市定禪寺通楮町

島中惣治郎

日露戰役殉國烈士師團忠魂錄一冊

右献納候ニ付

御前へ差上候事

明治四十年八月九日

宮内省

上の寫真版は

明治大帝陛下

今上陛下(東宮御當時)

謹而著者島中惣治郎

が忠魂錄特別製本貳

冊を献納したる時特

に宮内省より先帝の

御前へ差上候事の御

沙汰を蒙りたるもの

也

忠魂錄献納當時の著者



十二傑傳著述當時の著者





本書發刊に際し著者が平素敬意を表し親誼を辱うする二條公爵閣下。國民新聞社長(蘇峰)徳富猪一郎先生。萬朝報社長山田藤吉郎先生等より特に題字を寄贈せられたるを謹而感謝するもの也

大正十二年八月 中浣

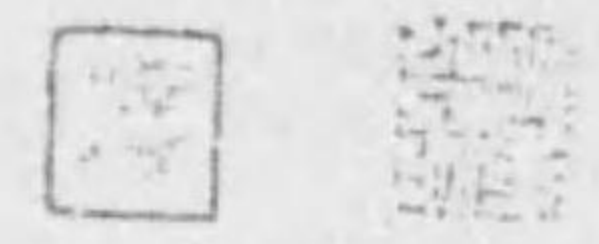
著 者 敬 白





海 指 換 圖 卷 之 一

正二伍基







極

乙

獲

皇

基

蘇峯之說





奮

闘

美野社社長山田藤吉郎





十二傑傳目次

一山本吉五郎君 (東京市).....	二一	頁頁
一飯野喜四郎君 (埼玉縣).....	四三	頁頁
一加藤早之助君 (東京市).....	九五	頁頁
藤井藤一君		
河合竹次郎君		
一内田七之助君 (東京府).....	十六	頁頁
一小泉千代松君 (横濱市).....	十九	頁頁
一大木貞次郎君 (東京市芝口).....	二〇	頁頁
一鈴木五三郎君 (東京市).....	二七	頁頁



一木下佐市君 (東京市).....	二八頁
一菅沼繁藏君 (東京市京橋區木挽町).....	三四頁
一大橋留五郎君 (東京府日暮里驛前).....	三七頁
一佐野德三郎君 (東京市日本橋區).....	三〇八頁
一宮田彌三郎君 (東京市品川).....	四四一頁

一十四雄傳目次

一北村由藏君 (橫濱市).....	四一九頁
一清水清四郎君 (橫濱市).....	五〇二頁
一小林熊之進君 (橫濱市).....	五五五頁
一渡井政次君 (橫濱市).....	六〇一頁

一直江龜吉君 (橫濱市).....	六一〇頁
一小笠原常次郎君 (橫濱市).....	六三二頁
一小池兵二君 (下野小山驛前).....	六五四頁
一宮地進君 (隅田川驛前).....	六六八頁
一鈴木愛作君 (隅田川驛前).....	七〇八頁
一飯塚亥之吉君 (隅田川驛前).....	七四一頁
一大森辰三郎君 (隅田川驛前).....	七六四頁
一鈴木平八君 (神奈川縣神川町).....	七九六頁
一北條喜作君 (東京市).....	八〇九頁
一小山彌三郎君 (東京市).....	八三一頁
一天野久助君 (東京市).....	八五四頁



一 村田助次郎君 (宇都宮市).....	八六頁
(大) 大湊茂七君	
(大) 塚久作君	
一 淺井新九郎君 (高崎市).....	九一〇頁
一 小池新作君 (栃木縣小山町).....	九二〇頁
一 田中久三郎君 (埼玉縣上尾).....	九四五頁
一 山崎健一郎君 (東京市日本橋區).....	九七八頁
一 半田武三君 (宇都宮市).....	一〇〇四頁
一 石井仲次郎君 (府下王子驛前).....	一〇三七頁
一 秋本角彌君 (府下隅田川驛前).....	一〇四三頁
一 坂本八郎翁 (宇都宮市).....	一一〇六頁
坂本太郎君	
目次終	

### 發刊の趣旨

我が帝國海陸交通運輸事業が時代の進歩開發に伴ひ、長足なる發展を爲したりと雖も、過已幕政當時と現今とを比較せば實に雲泥月鼈も管ならざる差異ありと云ふべし。其の特筆大書すべき成績たるや、海に汽船、陸に鐵道の利便擴張せられ、今や燦然として世界的機關たり事業とし益々旺盛を極めつゝあり。之れを舊幕時代に於ける駄送、驛傳の如き、或は不完全なる船舶等を以て航海し回漕せし時代を追想せば、厥の進歩改良發達たるや筆舌の逮ふべきも非らざる偉觀を呈するに到れり。而して昔時斯業に従事せし人々の行爲や奈何、其の店舗、倉庫業の如きは實に無責任疎漏を極め且つ醜劣なるも夥く、從つて非行を敢てす恬として恥を知らざるものありき。而も現今の斯界や鐵道の擴大と船舶の改良進歩と法規實施勵行と相俟つて斯業に従事する官民共に人格あり學識あり經驗に富み熱誠以て業務に努力せられつゝあり。而して會社又は個人經營に於て資金少くも數万を投じ加うるに幾多辛酸を嘗め奮闘以て長き星霜を閲みして實質を發揮するに到れり。於戲盛大の事業たるや知るべくして裏面に於ける慘愴苦心や想像に餘ありとす



如斯至難にして歴史ある人々に對し余は滿腔の敬意を表するに於て其の功績を竹帛に留め以て永世に記念たらしめんと欲して茲に我が帝國海陸交通運輸界に於て奮闘成功したる個人又は法人の重なる人々を余が大正十年六月以還約百五十驛即ち東海道本線、熱海、東北本線、中央、東北、東武、常磐、總武、房總、東金、北條、高崎、兩毛の諸線より約千名に近き斯界の諸氏に直接拜聴せる苦心談及び奮闘の光景を目睹聴取、蒐集したる執筆の草稿より特に豪傑、英雄の士を選抜して十二傑二十四雄傳と名命して天地人の三卷と別ち順次壹千名の官民業界の諸士を公刊して社會に紹介し以て其の活歴史を博く斯界と後進者の龜鑑たらしめんと欲すると同時に、最後に於て全卷を畏くも余曩に日露戰役に邦家の爲護國の神となりたる五千六百有餘名第二師團管下に於て忠死せる殉國烈士忠魂録を謹而

先帝陛下今上陛下(東宮殿下御當時)献納せし光榮を負へるを以て再び龍而

天皇陛下 攝政宮殿下に献納し奉らんと欲す。夫れ之れを諒とせられん事を。蕪辭を以て發刊の辭と爲す矣。

於 東都牛込區戸山町(一五)寓居書窓

大正十二年七月二十日 香 畝 島 中 惣 治 郎

### 著者の自叙稿

(號 香 畝) 島 中 惣 治 郎

一、著者は明治九年四月十一日を以て宮城縣牡鹿郡石卷町に生る。幼時郷賢を了へ側ら太田馬溪西村永清兩先生の門に入り國語、皇典漢籍を研學す。

一、明治二十六年十月齡十八、上京、全二十七年七月まで(現中央大學)法學院に入學専ら法律學を研究す。

一、明治二十七年七月以來仙臺市に在り奥羽新聞社に記者(十九歳)河北新報記者(二十九歳)たり。

著書忠魂録献納の光榮を負ふ。

一、明治三十八年仙臺市に於て日露戰役に邦家の爲忠死したる第二師團管下の五千六百有餘殉國烈士忠魂録を獨力以て二ヶ年を閲して宮城縣下十三郡一市を歴訪編著の上一般に頒布し併せて軍人遺族學校圖書館其他公共團體に寄贈せり。



特に畏くも

先帝陛下

今上陛下(東宮殿下御當時)

特別製本二冊を謹而奉獻して宮内省より御前へ差出候の御沙汰書を拜受の光榮を有す

一、明治四十一年より全四十四年まで仙臺市に於て奥羽新報社を獨力創立之れが社長兼主筆たり(二十九歳より三十二歳まで)。

一、大正四年より全六年まで郷關石巻に於て實業評論(旬刊)實業新聞(夕刊無休)獨力經營具に辛酸苦闘を以て社長兼主筆たり。

一、大正七年十二月上京を志し經營の新聞を廢刊して大正八年四月以來東京萬朝報社に高等訪問社員、雜誌「白」編輯長、運輸日報記者たり。

理想衆議院候補者としての失敗

一、大正九年度原内閣が普選案に對し議會解散を爲すや著者は當時運輸日報記者として關西視察中なりき。突如歸京僅か餘す處十數日の選舉期間に乗じて宮城縣第七區(牡

鹿、桃生兩郡)に於て曩に宣言書を有權者及び各學校、新聞社、官公衙等に配布して單獨以て政黨の改造、勞働問題、普通選舉、思想問題、婦人參政權、米穀官營、鐵道交通運輸完成の諸論を各町村に遊說せしも戸別訪問と事務所運動員を全廢して理想に掙ちて見ん事落選したり。雖然著者は常に政治と新聞を以て終世の事業とし且つ人生問題に對して痛切に寡鰥孤獨に微意を致せり。殊に不良青年男女の感化事業に爾來献身的努力と至誠を捧げんと覺悟し居るもの也。

一、官歴としては著者は二十歳より二十二歳まで即ち明治二十九年度仙臺地方裁判所、栃木縣廳、石巻稅務署、公證人役場に微職を奉じたりき。

一、刑罰は絶對に受けたる事なし。

一、賞與を受けたる事五回以上に及ぶ。

附記す、本書出版は頗る不完備に失するを切に感謝す。夫は著者が本月中旬より本書發刊を企て急遽執筆中愚子(獨り子)國雄二十歳が(幼少より經書の素讀や中等教育をも授けたりしも、一種の旅行病とも名命すべき乎十五歳以來斷續的に國中は勿論、北



# 十二傑傳

は樺太より南は朝鮮とハルビンまで殆んど無錢旅行に均しき行爲を敢てす。遂に本年七月十七日午前十一時脈世的自殺を北海道旭川市に於て決行したりとて、本月十九日午前十時三十分より數回の打電に接したり、爲に著者は愚子死亡が幾分か親子の情として冷靜なる思念を缺き爲に本書の如き順序不完全なる書冊を出版したる事を謹而讀者諸氏に感謝し置くもの也。夫れ之れを諒とせられよ焉。

大正十二年七月廿五日認む

於東京牛込區戸山町寓居

著

者

謹白



帝國

陸海

運輸交通界

二十四

傑傳

島中香畝著



山本吉五郎君

東京市芝區芝口一丁目  
 京三運輸株式會社取締役兼支配人  
 東京解船回漕株式會社社長兼取締  
 役  
 新橋運送組合長  
 前新橋運輸事務所管內公認運送取  
 扱人組合長  
 東京鐵道管理局內公認運送取扱人  
 組合聯合會長  
 株式會社鐵道公認運送取扱人中央  
 計算所專務取締役



業界の長者として齊しく推尊せらるゝ君は明治二年三月を以て東京市京橋區に生る。資性寛仁にして温良の人たり、岳父君は當時又新橋に於て開送組を創始し名聲を轟したる人なりき。而して君が今日復た新橋否沙留驛に於て斯業に従事し翬を唱へらるゝは實に父子此の新橋に於てするは尤も奇しき因縁深きものならずや。君は徳望あり經驗に富む業界の權威者たり、其の海陸運送上に於ける活歴史は枚舉に遑あらずと雖も、幾多の辛酸を嘗め奮闘以て名譽を博し衆望を擔へたるものなり。今や京三運輸株式會社の勢力は旭日昇天の如く厥京都市本社を初めとし、東京大阪其他には支店出張所あり既往拾萬圓の資本は今や五拾萬圓となりて尙且増加せんとするの隆昌を致せり、是れ則ち君の劃策宜しきを得たるものなり。君が過去五十有餘年間孜々汲々として海陸運輸事業に貢獻したる功績を雄辯語りて尙ほ餘りありと言ふ可し。君は清廉潔白の性格を有する稀有の紳士にして好典型たり、而も君の知遇を享け成功したる新進の人夥く克く君を私淑し忠實業に服し以て盛名を博しつゝあり、殊に君の情誼に厚く徳望の崇く奈何に后進を扶掖し誘導しある乎を推知す可きなり。君は殊に佛教を研崇し天賦の英資に信仰を經緯に織り爲し人格愈々崇高舉措圓熟達成せるは流石斯界の北辰として衆星の共ふ故ありとす。

古語曰徳不孤必有隣と君の如き君子の家門に禎祥の祚す可きや當然ならん矣。我が業界に君の如き功績赫々たる偉傑の健在するを謳歌し併而邦家の爲君の倍々貢獻せられ業界革新に努力せられん事を祝福するものなり。且つ鐵道五十年祝典に際し特に彰表せられたる仁也。



飯野喜四郎君

埼玉縣大宮町  
 國際運送株式會社取引店  
 鐵道省公認貨物取扱人  
**大宮運送株式會社**

電話 四二四五番



大宮町は埼玉縣の首府とも稱すべき樞要の町なり、且つ同驛線路が縱横十八哩に亘り以つて治績の顯著と運輸業の旺盛なるを知るべし。

大宮運送株式會社は元と合資會社なりしも大正五年度に於て株式會社と變更せられたるものなり。其の基礎の確實と信用の厚きと事業の旺盛を謳歌せられつゝあり。

重役には取締役社長飯野喜四郎君、取締役加藤定吉君、同逸見貫一郎君、同原口利吉君、監査役細田宗之助君等にして、其の株主等は地方有力のあるあり、以て同社の盛運や益々大なりとす。社長飯野君は埼玉縣縣會議長、中央會理事、東京鐵道局聯合會會長、上野運輸事務所管内公認運送取扱人組合長、日明第一部長、關東運送組合長等の名望を双肩に負ふ業界の驍將たり、以て大宮運送株式會社の内容の充實と降昌を卜知すに足るべし。

支配人小森勝橋君は栃木縣芳賀郡茂木町に生る、君は資性着實溫良にして克く運送業に實驗を有し、同社員上下に對し親切精勤の人なり。明治廿九年以來大宮町を第二の故郷として居住以來大宮運送株式會社の前身合資會社以來今日に及べり。以て小森君の敏腕と信望と社長飯野君の名望と相待つて倍々盛大を呈しつゝありとす。



加藤早之助君

自宅 東京市外千駄ヶ谷町字原宿  
二〇八番地

株式會社棧勝運送店取締役

株式會社棧勝運送店東京支店長

新橋運送組合組長

新橋運輸事務所管内公認運送取扱

人組合長

東京解船回漕株式會社取締役

株式會社事業會社取締役

江南事業株式會社取締役

棧勝運送店の柱石たり元勳たる君は資性謹厚沈着にして義氣に富み事に處し果斷且つ世路辛き經驗を嘗め盡せる仁にして陰徳家たり、而も徳望あり業界の泰斗と仰がれ我運輸業の革新を策し貢獻しつゝある君は、明治元年十二月十一日を以て神奈川縣中郡平塚町に生る。幼少より群童と異り起居動作大人の如し。父母に事へて孝、朋友に信、郷黨に



於て麒麟兒の稱呼を博し將來有爲の人物を以て矚目せられたりき。

◎苦學以て螢雪の窓に和漢の學を研修す 君は郷校にありて學術操行優秀を以て卒へ殊に孝行に厚く今尙九十歳に垂んとする母堂に孝養を怠らず、家庭平和にして宛然春海の如し。少壯志を樹て大磯町高麗敬業舎に入り専心一意孔孟の學を研究する處あり。大



藤井 一 君

に徳を修め人倫五常と治國平天下の要道は修身齊家にありしに横濱市辨天町通六丁目槌勝運送店に入り運送業に従事したり。其間卅五年の歲月を閲するに至れり。君は槌勝店主を弼けて業務の擴張を圖り奮勵努力信用を擅にせり、故に時勢の進運を達觀して其個人營業の店は大正八年四月組織を變更し株式會社槌勝運送店となり非常の隆昌

を呈せり。之れ君の同店に献身的貢獻したる結果にして其の功績偉大なりと謂ふべし。

◎東京に支店長たる君の苦心と成功 歐洲戰亂の終局を告げ財界恐慌激甚の際君は株式會社槌勝運送店創立に成功す、其取締役たるのみならず大正八年度に於て東京芝口二丁目汐留驛に同社支店を設置し自ら支店長として籌策を廻らしたり。當時の支店設置



河合 竹次 郎 君

や苦心慘憺を極めたり。雖然君の熱誠や着々成功し以て今日の隆盛を致せるもの偏に君の徳望と手腕の敏捷と信用の厚きこと職由するものなり。

支店に於ける社員優遇と出入人夫等に對する君や親切なる温情に富めり。世人當局者として多數の人々を指揮監督する點に於て非難を受くるは通有事に屬す然るに君は獨り社員のみならず



一般諸人に對して懇切を旨とし且つ人夫に至るまで同情を以て之れを遇し切に温情主義を以て標榜せり故に君を慕うて敬意を表せり。殊に同店には少壯敏腕家の温健なる藤井藤一、老練なる河合竹次郎兩君あり庶務會計を司り、加藤君を助けて業務に精勵せり、是れ所謂古語の勇將の許に弱卒なしとの諺の如し。實に君の精神を常に傾注實行せる結果にして諸人の加藤君に敬意を拂ふ故ありとす。

苦學生、勞動者、事務員等多く君の温情と義心に頼り就職するもの現在す。而も君は又日蓮主義の人として造詣尤も深し。君や寡言にして功を誇らず恩を云々せざるを痛切に感謝するものなり。君や温恭にして然諾を重じ人情に厚く意志健剛宏量ある仁者なり。君や先年青雲の志を抱き他日大に爲すあらんとする某大學生の學資缺乏を聞き窮狀を憐み支店の過員に不拘採用以て温情の許に知遇以て卒業を爲さしめたり。或は就職難に悩む人を自他に採用し周旋する等其の例尠からず、嘗て山梨縣の農家の子たる大森某飄然出京し運送業に従事せんとして處々に其の就職を求むるも經驗なき爲め採用せられず百方盡きて茫然自失以て俸に君に見え愁訴するを見て其質朴無邪氣を愛し且勉學の餘暇を

乞ふを容れて即時之を採用し荷物扱たらしめたり。某欣喜「アー安心した」の聲を發したる逸話ありき。

君は堯季の世稀に見る温情に富む義人にして好紳士なり、殊に國家本位にして私心なく殊に日蓮主義の人として造詣深く勞動者問題、思想問題に理解亦深し。業界の双壁として汐留驛管内に山本君、加藤君の相提携して革新を圖られ貢献せらるゝを慶祝謳歌するものなり。君春秋に富み、前途益々厥の美德を發揚する仁なり。君の健全と事業の隆昌を切に禱る。

君や今や汐留驛運送組合長として非凡の靈智と實驗とを業界の爲めに傾注せられつゝあり。以て君の理想の一班が貫徹實現せるを慶賀するもの也





内田七助君

東京澁谷驛前  
鐵道省公認  
中央計算所第一種加盟店  
明治運送株式會社甲種交計加盟店  
玉川電氣鐵道株式會社專屬荷扱所  
澁谷運送倉庫株式會社

電話青山 八二七番  
支店 惠比壽驛前 電話 芝 七六〇番  
出張所 日本橋箱崎町 電話 濱町 二二五  
澁谷驛公認運送組長  
惠比壽驛公認運送組長  
澁谷運送倉庫株式會社社長兼專務取  
締役

自宅 東京府荏原郡世田谷町字太子  
堂三二一 電話世田谷 六六番

我が業界の雄鎮として名聲噴々たる内田君は千葉縣東葛飾郡浦安村字堀江に明治十八年七月廿七日を以て徳望家銀次郎氏の次男に生る。君稟性温厚勤勉に富み克く辛酸苦闘を嘗めたる實踐躬行の好紳士なり。且つ實家は歴代實業家を以て地方に信望を博しつゝあ

り。以て其の内容の如何を推知するに足るべし。

◎立志上京 君年齒十三志を樹て上京以來某親戚方に在りて陸軍馬糧商に従事する事七星霜孜々汲々として奮勵努力斯業の有利なる事を深く胸中に藏めつゝありしが、時恰も明治三十七八年日露の戦争に際會し、機に敏捷なる君は直接馬糧を軍隊に納入する好機を獲たり當時君年齢僅か十九歳なりき。以て非凡にして辣腕家たるを知るべし。

◎粒々辛苦と勤儉貯蓄は素志貫徹を實現す。

白面の青年が飄然として上京以來東都の激烈なる馬糧商に従事して勉勵せる結果、七八年間主人に忠勤を勵み、粒々辛苦を嘗め時々主人より給與せられたる金員は塵も積れば山との吡喩の如く貯金貳百餘圓を所持するに到れり。慧敏なる君は之れを以て未だ中澁谷には荷馬車業者なきに夙に着眼するや、挽馬壹頭及び荷車壹輛を購求して馬夫を備ひ側ら運送業を開始し自ら店頭に在りて業務の隆昌を計畫せる結果、苦心の功空しからず、遂に十數輛の荷馬車及び馬匹を増加するの盛況を呈せり。君の得意や愉快なりと云ふべし。更に進展して澁谷驛前に出張所を設け熾に鐵道に便る運送取扱業を



創始するに到れり。

翻つて日露戦役終局を告ぐるや、馬糧の主なるものは直接陸軍省より交附せらるゝ事とはなれり。頗る不利の境遇に沈淪するや心機一轉運送業の將來旺盛ならんとする兆候を洞看せる君は澁谷驛前なる盛運舎を五千圓を投じ買収して、倍々業務の擴張を企圖せり、君の當時や陸軍省に直接受負するの資格なく止むなく下受負を爲し以て糧秣納入の責を完うしたるが如き苦心慘怛たる境涯や想ふべし。

◎時勢の進歩に伴ひ法人の第一期の成功を收むるに到れり。

明治三十七年創業以來大正二年二月には君が獨立經營の運送店は内田運送合資會社と變更するの盛運を呈せり。資本金拾萬圓なりき。然るに再變して株式會社と進展するの好運に到達せり。

明治三十七年以來内田君が敏腕を揮ひ信用を博せる獨立業は合資會社となり、更に大正六年度には株式と變更大正九年度には資本金六十萬圓となり、以て發展を呈するに到れり。而も禎祥隆運每期配當に於て異數の例を示し鞏固なる基礎を確立初年度一割

乃至一割二分以上次年度一割五分以上の配當の繼續を實現し以て的確なる計算を實施せると共に同社成立以來事業益々膨脹せるもの偏に内田君の敏活の行動と靈腕の効果に外ならずと謂ふべし。

左に同社が株式會社設立せる當時の趣旨書を参考に供せば其の基礎の確實たるを推知せらるべし。

澁谷運送會社 設立趣意書

歐洲戰亂全ク終熄ヲ告ケ各國今ヤ平和裡ニ於ケル經濟戰ニ移リツ、アリ彼ノ悲慘ナル戰敗者ヲ以テスル獨逸ニ於テモ國內ノ秩序未タ全カラザルニ商工業方面ニ於テハ國民ノ旺盛ナル元氣ト努力トニヨリ戰前ノ情態ニ復セントシツツアリテ今後各國ノ斯界ニ活躍スルノ狀將ニ白熱的ナルモノアルヘキハ想察スルニ難カラス我ガ邦ニ於ケル經濟界ハ歐洲戰亂ノ好影響ヲ受ケタル結果產業界ノ發達亦空前長足ノ進歩ヲナシ生産能力ノ増加セルコト戰前ニ幾倍シ各種事業資本ノ膨大ヲ來タシ曩日ノ大資本モ今日ニ於テハ亦誇ルニ足ラサルニ至リ其異常ノ進歩發達ハ中外ノ均シク驚異ノ眼ヲ以テ見ル處ナリ而シテ產業ノ發達ト生産ノ増加トニ伴ヒ之ニ平行シテ發達セシメサルベカラサルモノハ運輸交通機關ナラサルベカラス若シ夫レ之ガ整備充實ヲ圖ラ



ナランカ産業ノ發達ヲ阻害シ世界ノ商戰裡ニ馳驅スル能ハサルニ至リ輸贏ヲ東西市場ニ爭フモノ、不利云フ可カラサルモノアルベシ  
 茲ニ於テカ國內運送機關ノ完備ヲ圖ルコトハ戰後經營上最モ急ヲ要スルモノナルコトハ識者ヲ俟タスシテ明ナル處ナリ然ニ我邦運送業者ヲ現狀ヲ見ルニ依然トシテ何等革新ノ見ルベキモノナキハ吾人ノ窃ニ嘆息セルヲ得サル處ナリ蓋シ資本ノ貧弱ハ其ノ設備ト機能トヲ完全ナラシムル能ハズ規模ノ狭小ニハ徒ニ冗費ヲ増加セシメ延テ賃金ノ不廉ヲ來スハ當然ノコトナリトス吾人深ク之ヲ憂ヒ茲ニ資本金六拾萬圓ヲ以テ本會社ヲ設立シ其設備ヲ完了シ斯業ノ改善發達ヲ計リ從來ノ如キ運送上ノ滯貨延着等ノ弊害ヲ根本的ニ除去シ以テ運輸補助機關タルノ實ヲ舉ゲントスルニアリ大方ノ諸賢叙上ノ趣旨ヲ贊同シテ本會社ノ完成ヲ援助セラレンコトヲ切望ス  
 右表ノ如ク逐年事業ノ隆盛ヲ加へ且今後山ノ手沿線ニ於ケル人口ノ増加ト鐵道省山ノ手線改築工事ノ竣成トニヨリ益物資集散ノ激甚ヲ加フヘキハ疑フノ餘地ナシ又仄聞スル處ニヨレハ將來大東京タラシメンカ爲メ澁谷驛ヲ以テ山ノ手方面ニ於ケル物資集散ノ中樞地タラシム可シト若是ヲシテ眞ナラシメハ本事業ハ經營上洵ニ地ノ利ヲ得タルモノニシテ兼營ノ倉庫業ト相俟チテ將來益々發展ノ餘地綽々タルモノアルハ吾人ノ窃ニ意ヲ安ンスル處ナリトス

大正九年七月

日

發 起 人

今や澁谷運送倉庫株式會社は隆々として旭日昇天の勢を呈せり。之れを内田君が僅か十三歳にして郷關を出て上京以來苦心奮闘備に七ヶ年の努力が貯金貳百圓餘を資本として馬力運送業を創始せし當時と比較回想せば轉た感慨無量ならん。今や君の意中や壯快なりと云ふべし。

君今や帝都運送界の重鎮と仰がれ偉大の敬意を拂はれつゝあり。

同社重役には社長兼專務取締役内田七之助、取締役西九哲三、全衛藤新一郎、全加藤茂太郎、監査役中野菊太郎、全落合善十郎、全青木林藏諸君あり。孰れも熱誠を披瀝し社業の旺盛を計圖せられりつゝあり。同社の前途や益々偉績を呈する故ありとす。

殊に同社社員は孰れも大尉級及中尉級特務級並に海軍機關士階級の人々ありて、克く社業に執掌せられ精勤せられつゝあり。其の重なる社員には本社助役兼業務課長若嶋喜久治、本社會計課長吉見喜章、庶務課長田島力郎、倉庫課長近藤佐太郎、惠比壽支店長には元陸軍輜重兵中佐中山鈴次、同支店助役柴田重易、同支店助役梶登吉の諸君あり。孰れも同社の爲に貢献せられつゝあり、内田君の寛厚の性格は春海の如し。前記の社員諸



君が千軍萬馬の巷に馳驅して邦家に忠誠を捧げたる武勳赫々たる武人が今や君の許に心服し以て社務に努力せられあるを慶賀すると共に内田君の名器たるを稱讃すべし。

君今や衆望を双肩に担うて東京山の手線澁谷驛公認運送組合長及び惠比壽驛公認運送組合長たるの外五會社の重役たり。以て君の儘に精力絶倫にして前途多祥春秋に富む斯界の驍將たりとす。其の家庭や圓滿にして内助に功ある、もと子夫人と、秋子嬢あり、平和のホームを出で、晝夜兼行社業に業界に雄飛活躍貢献せられつゝあり。君が理想とする運輸交通機關の消長は一國の興敗の繋る處なりとの意見の要は君の如き活歴史を有する幾苦闘経験家の須らく手腕に俟つべきもの益々多しとす。君や健闘力戦以て大に業界の爲に盡瘁せられ以て盛名を益々邦内に轟かれん事を併せて君の前途と同社の隆盛を祝するものなり。



小泉千代松君

横濱市太田町一ノ二二

### 小泉運送店

電話本局 三五一二  
六二二五

有價證券現物商

横濱運送業組合長

横濱港沿岸人夫受負營業組合長

身を教育界より運輸界に轉じ以て芳名を一世に轟しつゝある小泉君は東京府荏原郡荏原村字六郷に明治二年十二月を以て生る。氣宇宏濶、資性慧智、殊に仁俠に富む現代稀に見る溫情と理智に長する紳士なり。君や幾多波瀾に掉し以て辛苦と戦ひたる成功家たる立志傳の浩瀚なる頁を飾るべき仁なりとす。



## 學歷の一斑

一八

明治維新當時には教育機關の最高として京都に同志舎あり、鹿兒島に郁文館あり、東京に東京師範學校あり後ち東京府中學校と改稱せられたりき。然るに小泉君は東京府中學校に四ヶ年間修學以て螢雪の窓に研學の後大に人格と學識とを修養せられたり。以て君の性格の一斑を窺知するに足るべし。

## 運輸界に入りし動機

君は最高學府に入り研學の後ち十九歳の時神奈川縣川崎郵便局に半歳雇員として奉職せるも夙に交通運輸業の發展せんとするを明察し以て内國通運株式會社横濱支店に入社以來明治十九年度より全二十七年度に及び精勤以て斯業に精通するを得たり。然るに君は年齒廿四少壯氣銳潑瀾として奈何で驚馬と槽櫪の間に駢首する人ならん哉。徐に感奮する處あり。當時横濱市には未だ屋外労働者組合設立なきを深慨し且つ労働者性格矯匡救濟策を明治廿七年度に於て計畫遂行の上更に横濱運送業組合を設立して其目的を貫徹以來同組合が今日の隆昌を呈するに到れるは偏に小泉君の着眼努力の實なりと云ふべし

君の義心としては程ヶ谷驛前に小泉運送店を經營すと雖も夫は實際の經營者は久敷く小泉君と知己の間柄なるを以て斯業開始を慫慂せる結果自ら進んで資本金を出資せるも今尙數年間に及ぶも君は同店に至りて收支決算を爲さざる底の義侠的廉潔の仁なり。或は明治三十五年度横濱市に屋外労働同盟罷業に際し之れ所謂横濱市に於ける労働者同盟罷業の蒿矢として頗る紛擾を極むるに際し君や調締に盡力せられ以て圓滿なる解決を告げたる功勞者なり。

君や小泉運送店の外日露開戦以還財界の爲に有價證券現物商を營み公私の利便を計り今や同市の大立者として靈腕を揮はれつゝあり。

君は爾來内國通運株式會社横濱支店關係と沿岸人夫受負業を以て東横濱驛構内に於て人夫供給業として俠名を博し克く労働者間に敬重せられつゝある棟梁なり、従つて運送界の功績と歴史を有する先覺者たり好指導者たり。君の如きは識見あり加ふるに赤十字特別社員、武徳會員、愛國婦人會員、義勇艦隊後援會員として名譽を有し且つ意義ある生活爲して邦家に忠誠を効し世道人心を指導し併せて名を揚げ後進者を扶掖する義學や稱讚するに餘ありとす。乞ふ君の健闘益々社會公共に國家の爲に大に勇奮自重自愛せられん事を切禱するもなり。





大木貞次郎君

本社 東京市芝區芝口一丁目一番地

電話銀座特長 二二七三 二二七五 二二七四 二二七九

川長運送株式會社專務取締役社長

新橋運輸事務所管内組合評議員

汐留運送業組合副組長

東京船回漕株式會社取締役

自宅 府下荏原郡南品川三木字楡

ヶ崎八六三

◎川長運送株式會社の沿革と營業の盛況 明治五年以降海陸運送業の從來個人經營を以て隆名を博せし大木長次郎翁の活歴史や其苦心奮闘は筆紙の盡す可きものに非らず。而して現社長貞次郎君は爾來和歌山縣海草郡雜賀村に明治十一年を以て生る。君は藩士小林權藏君の次男なり。資性謹直勤勉にして溫情に富む好紳士なり。君幼時郷費に在りて

學操優等を以て校を出で后ち笈を東京に負ひ慶應義塾理財科に入り研鑽大に學徳を發揮したる秀才なりき。二十二の時明治三十四年大木家に養子となり以て大木の姓を襲ぎたる仁なり。

運送業に鞅掌の君は臥床に簿冊を手に假眠以て寢食を忘れ幾星霜を経て今日の旺盛を致せり。君稟性謹厚溫情の人殊に業務に精勵以て盛大を念とせり、君外國貿易の不振と海陸貨物集散の微々たるを憤慨して畫策する處あり以て其の發展を期しぬ。時不幸にも明治三十四年中舅父長次郎翁は病の爲め溘焉として不歸の客とはなれり。君の悲嘆と失望や言語に絶せり、君大に覺悟する處あり故人の靈を慰め冥福を修して舅父の志業を繼ぎ旺盛をなすは唯一の孝道なりとし、自から店頭に立つて業務の擴張を圖り着々鳳翼を張りて商才士魂を發揮し以て君は壯年にして而も激甚なる海陸運輸業に闘將として采配を執る人とはなれり。以故急に簿冊も整理せざるべからず。内外忙殺せられ寸暇なき身とはなれり。而も精勵晝夜以て昇に繼ぎたり、故に深宵枕頭簿冊を手にして徹宵に及びたること幾十星霜に及びり。其の精力と氣魄とは當時店員たり今尙會社取締役たる人々の恐嘆稱賛して措かざる所なり。君や遂に實務に精通するを得たり、其の熱誠や稱するに餘りありとす。而して君の奮闘努力の收穫は事實に於て以下營業所在地には支店出張



所として實現以て雄辯に諱るに足れり。其支店として川崎驛前横濱驛前鶴見驛前蒲田驛前大崎驛前秋葉原驛前芝區三田四國町品川出張所田端出張所日本橋支店等なりとす。

◎株式會社と變更したる川長運送店と君の令名と信用と靈腕と成功 精神一途何事不成哉とは君に冠す可き名句なり。以上列擧の支店出張所と著名の會社商店は個人經營の川長運送店の苦心慘愴努力奮闘の結果收穫したる成績なりき。雖然時勢に鑑みて之れを一層擴張するの必要あり。以是大正十年七月二十一日を以て業務一切を擧げて讓渡し株式會社に變更したり。

◎貨物集散の主なる方面 鐵道便に依るもの内地朝鮮滿洲一圓に汽船便に依るは取引ある汽船會社便船寄港地及其の接續地一般なり。

◎川長運送株式會社役員と社長の信望及個人營業當時の功勞者たる人々は今や重要な位置を占め以て法人として社業に至誠以て貢獻せり。以て大木社長の溫情と德義を證するに足るべし。

吾中央に於て古き歴史を有するものは通運原鐵川長とを以て屈指す可し。而して川長運送店には米本庄五郎、小林種六の諸氏は社長大木貞次郎君を補佐して精勤以て功勞ありし人々なり。會社成立と共に取締役には米本庄五郎、小林種六、土川太藏(舊名普三郎)、

岡村伊三郎、宮澤實の諸氏、監査役には井谷彦太郎氏等擧げられ敏腕を以て鳴る在り。

其社内には庶務部經理部鐵道部回漕部あり前記の諸君之れを執筆し益々社業隆昌を呈せり。是れ即ち大木社長の德望と溫情の發露にして業界に珍稀とすべき美譚逸話たるべし。君迅くも電氣事業の旺盛を洞觀し、該機運搬に専ら力を致せるは先見の明ありと言ふべし。以故君の個人より法人としての運送業には主に該會社或は商店の得意を有するに於ても其の證左とするに足るべし。我業界の成功家として君の爲に謳歌し併て社運の盛運を禱るもの也。

君には兄弟六人と姉妹あり。長兄金太郎君と次男大木貞次郎君、三男土川太藏君、四男野上勘四郎君は現在徳川公爵家に在り、五男米本庄五郎君、六男小林種六君の諸氏と外に姉妹あり、孰れも相當の成功と良縁を以てせるは實に麗はしき兄弟姉妹なりと云ふべし。

我が業界に於ける大木君の奮闘努力の一斑を稿して君の健全を祝禱する所以なり。





鈴木三郎君

東京市神田區花田町二番地

株式會社小林運送店

電話下谷 九七六番

專務締役兼社長

自宅 四谷區鹽町一ノ二六番地

沿革

日本三川の一たる利根川や阪東太郎の異名に於て上流に溪谷の雄美と共に名高し。其の水源と河川の流域を利用して水運業を開始したる小林運送店の祖先の先見の明や崇し。今や小林運送店は法人として名聲轟々たり、而も其の沿革たるや同社は鈴木社長の生家

なる小林家に於て徳川幕府時代より利根川沿岸武州北埼玉郡北河原川岸に夙に水運業を經營せる地勢の關係上専ら上州信越行貨物を取扱ひたるに濫觴せり。殊に明治十五年日本鐵道株式會社第一期線たる上野熊谷間鐵道が開通するや熊谷驛に鐵道部を開始し次て秋葉原驛開始と共に東京支店を設置し以て誠實を旨とし刻苦經營漸次江湖に信用を博しつゝあり。然るに時勢の進運に鑑みて個人經營を變更して大正九年二月を以て資本金五拾萬圓の株式會社を創立す。益々業務の刷新改良と共に擴張を策し以て現今の如き旺盛を見るに到れり。

社長鈴木君は資性謹直にして業界には山本吉五郎君と併稱すべき名望と手腕ある沈着信義に富む現代稀に見る好紳士なり。其の學歴たるや故中村敬宇先生を私淑し泰西の宗教クリスチャンの教義を尊崇して信者たり、且つ小石川同人社に入りて螢雪の窓に研學年あり人格の崇高と相俟つて秋葉原驛管内には長者を以て推戴せられつゝあり。君は中央計算株式會社の設立に尤も努力を爲したる人にして山本氏、木津川友五郎諸氏と同社の重鎮を以て矚目せられつゝあり。或は歐亞の戰爭には禁煙貯蓄を實行して其の資金を秋



葉原驛勞働者及び自社の使用人に惠與し荷車等を買與して禁煙の實を擧げ、或は楠公銅像建設あるも勤王家たる新田義貞公の銅像建設なきを慨し其の主唱や今將に設立に着手せんとしつゝあり。君文久元年を以て埼玉縣北埼玉郡北河原村に生る。幼少より言動長者の如く戲嬉群童を凌ぎ既に出藍の譽あり、殊に屢々秋葉原驛組合に於て副組合長に推選せられ、又永く理事として業界に貢献せられつゝある仁なり。

其の趣味としては實生流の謠曲に長じ以て斯界のオンリーチたり、現に禁酒主義を嚴守す。或は毎月會合して講話を開催するに到れり。以て君の性格の全斑を卜知するに足るべし。而して先代古鼎翁が回漕業を利根川沿革に開始して盛名を揚げたる以還君の徳望と相俟つて今や隆々旭日昇天の勢を呈するもの偏に君の信用と奮闘と努力との致す處なり。君は醸造家として高名なる鈴木家に女婿たり、令弟支配人取締役たる徳三君と隔田川支店長同社常務取締役たる愛作君と三人同社に重鎮として長兄を助け、社業の隆昌を圖れり、殊に徳三君は過已横濱生命保儉株式會社に在りて敏腕を揮ひ金澤支店長より名古屋大阪京都の支店長として各都市に亘りて八ヶ年間敏捷なる勤績精勵の人なり、以て

其の經驗を傾注して兄弟三人各自熱誠なる社業に奮勵せられつゝあり。同社の隆盛や既に偉績を呈せり。而して同社は大正十一年三月本所錦糸町に支店を特設せり。又最近新橋驛芝口一丁目に支店を設立以來支店長として令弟徳三君牛耳を執り好成績を呈しつゝあり。鈴木社長の意圖や壯快欣然たるべし。大に三君の健在と長壽を保ちて一層社業の盛大ならんを熱望するもの也。

現重役には専務取締役鈴木社長、常務取締役鈴木愛作、同妻澤孫六郎、同樋口茂太郎、同理事鈴木徳三、監査役小林甚内、同阪本八郎、相談役小林彌七、同小倉彦四郎の諸氏なりとす。偏に同社の隆盛を切望す。





社社長兼專務取締役 木下佐一君

東京市芝區芝口川岸廿二廿三號

### 株式會社鐵道木下組

電話銀座  
三五九六番  
三五九七番

自宅 本郷區森川町一番地（牛屋  
横一八四）電話小石川四四二番

#### 沿革と同社の鼻祖の閱歷

鐵道木下組の驍名と優勢たるや周知の事に屬せり、其の宏大なる店舗や而も帝都中樞たる芝區芝口川岸に陣容を張り正々堂々業務の繁昌を呈するもの其の沿革を按ずるに明治七年北海道開拓枝師鐵道院總裁として令名ありし平井晴次郎君の親任厚かりし木下安太

郎君が明治三十六年度に於て芝區源助町十二番地に地を相して鐵道御用人夫供給、局用品積卸受負、鐵道局納入品の取扱と一般海陸運輸業を慧眼以て個人經營の許に開始したるもの也

先代安太郎君は當時官吏として平井君の知遇を享け敏腕英才の人なり。殊に運輸係として手腕を揮ひ且つ開拓の動機が君の渡道となり以て邦家に貢献せられたる尤も北海開拓と鐵道事業には功勞ある特筆稱賛すべき仁なりき

鐵道事業創始の際とて米人ヘンレイ、ホロイ君が鐵道雇技師たると備期滿了歸國に際し安太郎君一般運輸交通界視察せんとしてヘンレイ君に隨伴し以て渡米明治二十九年以來歐米を視察したる後ち歸朝するや我が海運界の振はざるを慷慨し掛冠以て身を掖濟會に投じて下級海員の養成に貢献努力せられたる等擧げて數ふべからざる功績を有する拔擢の仁なり。其後幾多の辛酸を嘗め難行を經、五星霜を閱し改善の實を擧げ事業着々奏効して明治四十一年に至り業務發展するや安太郎君同族近親間を以て資本金五千圓の合資會社を組織し基礎益々鞏固となり信用を博し盛況を致せり、以て安太郎君の先見や今日



の素因を築き上げたり。然に大正五年八月祖龍安太郎君溘焉として殞落せり。噫曷ぞ天斯の俊傑を奪ふ哉、雖然故人の偉業は嚴として後昆に崇尊せられつゝあり以て瞑するに足るべし。偉なる乎祖龍の奮闘努力の賜物や

◎専務取締役たる佐市君の勇奮と成功と閱歴

大古に於ける帝堯假合理明なりと雖も帝舜なくば洪水氾濫を治め猛獸龍蛇の害を沮澤に避けしむる事能はざるべし。况んや善政を布き美風を流くを得ん哉

同社は故人安太郎君逝去と共に佐市君代表社員として跡を襲ひ以て業務の大發展を策計の上資本金五萬五千圓に増資し制度設備の大革新を計り一層の隆盛を呈せり。越えて大正八年四月鐵道院に於て運輸補助機關たる運送業者の因襲的惡弊を一掃矯正して業界の改善の目的に出で公認運送取扱店を選ぶに際し第一回發表に於て其の榮譽を担うて公認取扱店たり。以是佐市君斯業の擴張を圖り大正八年十月資本金五拾萬圓とし株式會社に組織變更したるものなり。君は兵庫縣神戸市元町に明治二十一年二月十五日を以て生る資性穩健謹厚にして幼時非凡の行動あり長じて明治三十三年志を樹て勇奮横濱市に來り

て海外關係と世の進運を洞看して遂に木下家に入りて故人の遺業を繼承し以て現今の如き法人會社を成立したる敏腕家なり君の得意や壯快なりと云ふべし。君の奮闘や席の温まるを知らず以て其の精力の絶倫なるを知るべし

其の公共的行爲の一斑としては帝國水難救濟會正會員赤十字社員愛國婦人會員鐵道協會員たり

官衙會社の主なる得意として、遞信省東京遞信局より各地に發送の省用品の引取汐留驛にて貨車積卸鐵道省にありては汐留上野名古屋倉庫に於ける省納入品取扱及横濱倉庫に於て省用品の貨車積卸人夫供給等にして諸會社には住友製鋼住友電線富士製紙東京電燈東京電氣局各水力電氣神戸製鋼所大島製鋼所石川島造船所芝浦製作所深川鐵工所東洋木材防腐會社日本ベイント製造株式會社等の發送到着品を殆ど一手取扱を爲すに到れるもの偏に先代の遺徳と佐市君の敏腕の致す處なりとす。以て社業の一斑を掲げ君の壯舉奮闘を祝福するもの也

支店としては東海道鶴見驛前潮田及び山手線大崎驛前等にして業務益々盛大を呈するに到れり。殊記す鶴見驛在支店長松永秀作君、大崎驛前支店長田中音吉君等孰れも同社の双壁とし忠勤者として讃稱せられつゝある好人物なりとす





君 藏 繁 沼 管 役 締 取 務 專

東京市京橋區木換町四ノ九  
株式會社 八百市運送店

電話銀座 一八二一六番  
二七一一番

芝區芝口二丁目四番地  
電話銀座 二二五七八番  
二五七九番

龜有支店 南葛飾郡龜有村  
電話新宿 六六番

龜戶出張所

府下龜井戸五ノ橋町十一  
電話本所四一四〇番

八百市運送店の隆名の世に喧傳せらるゝや久し其濫觴たるや信州の人管沼市藏君八百屋を經營盛大を極むるに到れり、同店は慶應二年に於て初めて個人の荷物の運送が激甚を呈するや茲に端なくも運送業の趣味を有す。遂に運送店を開始したるもの即ち是れ今の株式會社八百市運送店の原因なりとす

千葉縣君津郡中郷村に管沼又七氏あり資性實直勤勉温良の人なり。之れ則ち繁藏君の嚴父にして管沼市藏氏の女婚となり八百市運送店に貢獻努力せられ營業の擴張と隆昌を效したる中興開基なりとす

◎法人組織の動機と專務取締役管沼繁藏君の信用と奮闘と成功 專務管沼君は明治十五年十一月を以て千葉縣君津郡君津郷に呱呱の聲を擧げぬ。資性温和惻愍加ふるに慎重忍耐の仁。君や吾が運輸業の曙光が倍々發輝すべきを洞察し己人經營たる八百市運送店を大正九年七月の頃財界頗る不況なるに不拘屈せず撓まず熱誠を以て株式會社と爲さんとすして既に全年十一月に到りて資本金五十萬圓の會社成立を告げたり。其の當時や財界不況にして僅か數月に亘り熱烈に奮闘努力せられたると其の成功を爲したるは異數にして偏に君の信用と敏慧と精勵との致す處なりと云ふべし。最初君の計畫たるや資本金百萬圓たらしめんとせしも其の成立の遅延せん事を憂慮し遂に五十萬圓となしたりしも尙ほ進んで増資實行せんとしつゝあり、其の擧や期して俟つべきなり  
故とめ子夫人は糟糠の妻として帳簿計算に良人の成功を助けたる貞女の龜鑑なりき。而



して今や亡し噫痛恨なりと云ふ可し。繁藏君は容姿端麗人に接して温情の人而も敏腕と信用とを兼有す、又た夫人とめ子は十八才より淑徳克く良人の事業を補佐し帳簿の整理計算に執掌せられ以て治績を顯揚せられたる賢夫人なり、不幸にも大正十年九月二十一日溘焉として享年三十八歳を一期として永遠の眠に入りたり。君の悲嘆や想像以上に出てぬ。嗚呼悲愁なる哉夫人の病症や腦溢血なりと傳聞す。生前如何に夫君を助け又た業務に焦慮勉勵せるかを追想せらるゝものなり。幸に盛大なる株式會社と成り夫君社長兼専務取締役となりて后ち永眠せられたるは故人が聊か地下に瞑目せらるゝに足るべし。業界記念とすべき淑徳貞節夫人とめ子夫人よ噫矣

◎常任監査役と常務取締役と重なる取扱貨物

老齡鏗鏘として七十六歳尙壯者を凌ぐ菅沼又七翁は同社常任監査役たり、之れ亦業界の異彩なりとす。殊に常務取締役には慶應理財科出身の辻嘉市君あり、菅沼専務の徳望と手腕と相俟つて好成绩を呈せり。取扱の重なる荷物は機械類製紙鐵工場等多きを占むるに到れり且つ

汐留驛構内には八百市運送店獨占的貨物積卸荷扱所の設置を見るに到れり殊に東京土管瓦商組合一同の囑託に依り擧げて同組合の貨物發送は八百市運送店の専屬取扱に屬せり飽くまで専務菅沼君の信用と誠實との實質を證明して餘ありとす。君や前途に偉大の希望を抱懐する仁なり。大に君の健闘を謳歌し併て同社の益々隆盛を祈るもの也



大橋留五郎君

第三合資會社 三河島驛  
電話下谷六一二四

營業所 東京府下日暮里町大字谷  
中本六三六番地

出張所 全日暮里谷中本二八番地  
電話下谷四六五番

全 三河島驛前  
大橋組



大橋君は僅か十七歳にして明治十六年中志を樹て栃木縣下都賀郡赤間村より飄然として空手上京以來孤立無援の東京市深川區大工町に來り備さに苦心努力、幾奮勵粒々辛酸の間、躬を俾曳となり七八ヶ年にして壹輛の俾より優に參百輛まで所有するのみか一方の親方となり業務の擴張に伴ひ厩橋、外手町に移轉せるは明治二十二年の頃なりき。君や稟性正直勤勉の人、夙に都市人口増殖と土地益々陝隘を告ぐるや、從來の營業を斷然廢止三河島町の將來發展せんとするを洞看するや勇躍移住の上、鐵道應時代石炭殻の所分に困じつゝあるを引受け之れを同町窪地埋立に利用し以て同町の開拓に専心從事せられたり。今や該石炭殻拂下納金數萬圓に達するに到れり。之れを昔日の三河島と現今とを比較せば土地の良好となり戸數七千有餘を算するの盛況を呈し人家櫛比せるもの君の先見の明や稱讚するに餘ありと云へし

◎専用線の竣成と祝賀の盛宴

大正十一年十一月十五日の佳節を卜して三河島町に大橋組の爲に鐵道省は専用線を布設せり。是れ即ち大橋君の成功を譚る一大記念の實現せるもの也。當日の光景や盛大を極め遠近より君の成功を祝賀せんとして優に六千名餘の公私來賓の列席を見るに到れり。

以て三河島町に特筆大書すべき段賑の印象を深うせしめたり。

特に大三合資會社は、大正十年以來時勢に鑑みる處あり法人の許に六名が創立以來盛大を呈すると共に個人の大橋組と法人の會社とが相協力一致以て同一の事業に従事し完成しつゝあり。特に大三合資會社には主任福島徳太郎、大橋組會計主任小島文八、同組外交主任駒場久治郎三君の如く熱誠以て創業以還敏腕を揮ひ精勵しつゝあり。今や前三河島驛長として令名ありし池谷清治君大橋組顧問として相共に事業に努力貢献しつゝあるは偏に重鎮たる大橋君の徳望と手腕の實現の致す處也

大橋組營業概目

三河島驛前に運輸倉庫を初めとし石材、木材、石炭、木炭、砂利、川砂、石炭殻販賣、土木建築請負業、埋立工業請負、土地家屋賣買、金融業を營み以て地方開發と公衆の利便を計圖せられつゝあり。之れ大橋君に冠すべき艱難耐を玉にすとの古諺にあらずや。君今や衣食足り禮節を知り赤十字社名譽社員、武徳會員、水難救濟會員、衛生會員等の名譽を有するもの人生行路や快愉とすべし。君の健捷大に事業の旺盛に努められん事を附記す大橋組舊來の店舗は大正十二年七月將に堂々たる洋館を新築せられ同町の風致を以て美化せしめたるを欣快として其の竣成を併せて謳祝す





君 郎 三 德 野 佐

本店 東京市日本橋區江戸橋際  
電話本局 七二七番

出張所 横濱市北仲通り四ノ六五  
電話本局 三二五九番

尾張屋回漕店

内外輸出入貨物取扱  
京濱間發動汽船取扱

百折不撓遂に秋霜烈日を冒して芳名を吾が回漕界に赫灼たる快男兒佐野君は明治十一年二月六日を以て茨城縣新治郡中家村に呱呱の聲を挙げぬ、父君善兵衛翁は農業を以て終世の業とせる好人物たり、徳三郎君は十九歳の時志を樹て上京、神田區和泉町一番地小川運送店に入りて三ヶ年間に亘りて運送業に精勵奮闘したる後ち轉じて小石川區丸山町

に於て専ら荷馬車業に従事丸通運送株式會社の下受負を爲して陸軍兵器本廠並に砲兵工廠の仕事に従事自ら荷馬車を曳きたり頗る奮勵をなしたりき。時恰も三十七八年日露の大戦に際會して國家に奉公せんとするの念勃々たりき、凱旋に際し君は小石川區小日向町に在りて兵器及び戦利品の運搬に奉仕的従事を爲したり。后ち丸通會社の方針の擴張に伴ひ君の事業も擴大せる結果圖らずも失敗に歸しぬ。君や勇猛邁進の人なり心機一轉小規模の店舗を麴町一番町に設け、安田商事合資會社の砲運丸荷物運搬積卸に従事したるも之れ亦失敗に終れり。夫れより神田三崎町に於て再三陸軍省の兵器並に工兵廠の仕事に或は某商店の兵器運搬に従事せるも總て失敗せしを以て君猛然として朝鮮に渡りて大正元年には仁川港に於て約三ヶ月間粒々辛酸を嘗め勞働に従事して其間多少の資金を貯蓄せるを以て同年十一月三日渡清の念禁する能はず平壤まで進みたりしも不幸にも内亂勃發せし結果遂に其の意を果さず資金を空費して空しく歸國するの止なきに到れり。其間默考沈思潛勢力を養ひ大正博覽會開催に際會して友人六名と共に合資會社を設立せしも全然敗滅に歸したり。以故或石炭商の許に寄食、斯業に従事する三ヶ年間孜々とい



て忘らず大正七年五月に至りて君は活動奮勵の效を奏して現在の店舗を獨立經營するに到れり。君は一見して風彩堂々たる紳士的好人物なりと雖も、優に十九歳以來出郷最近まで筋肉勞働に従事せる人とは見えす、會社員昇りの人と見えるも過已や奮闘力行の仁にして眞に好編鑑たる仁なり。今や某商業家一店の専屬として信用を博し事業旺盛を呈せり。君資性精勵温良の人なり、第一期の成功を遂げ將に大志を抱懷して前途に大飛躍を爲さんとする奮闘家たり又た回漕界の驍將たり以て君の益々多祥ならん事を禱るものなり。其の勤績店員には關寅吉、岡久義、松山榮治、淺野長太郎、山口秀一、松本伊三郎、鈴木安太郎の諸君あり、孰れも熱誠を以て佐野君を助け益正月と雖も無休暇業務に勤勵せられつゝあり。之れ所謂勇將の下に弱卒なしとの比喩の如く同店の隆昌を卜知するに足るべし。殊に徳三郎君の南船北馬の活動と馬を陣頭に進めて日夕健闘せられあるを祝賀するものなり矣



宮田彌三郎君

鐵道省公認

### 品川運送店

東京市芝區高輪南町六十五番地

電話高輪一二三四番

全 荏原郡大崎町貨物驛前

電話高輪一二二八番

現品川公認組合長

赤十字社員

帝國水難救濟會名譽會員

國勢調査委員

帝都の咽喉を扼する東京灣の雄大たるや世界的交通運輸の首位を掌握する自然的形勝の地たりと云ふべし。今や品川灣の改造益々善美を盡し以て大計畫を策せられんとすもの當然なりとす。此處に夙に品川運送店を開始し以て今日業界の雄鎮たり者伯と仰がれ



盛名を博する仁を宮田君と爲す。君は文久三年七月廿八日を以て東京江戸橋際現三菱倉庫たりし地に生る。資性謹直寛厚少時より辛酸を嘗め苦闘を爲したる人。殊に君十三歳の時即ち明治九年四月三日神武天皇祭の祝日に小僧として日本橋佐内町（當時第一大區六小區と稱す）内國通運會社に住込み故人吉村甚兵衛君（舊飛却間屋泉屋主）初代の社長より二代佐々木莊助君三代佐久間庸則君四代吉村甚兵衛君五代佐久間精一君等の歴代社長に仕事し以て誠實忠勤の譽を博せり

天曷ぞ無情なる、君の家宅は祝融の厄に遭遇せり、時恰も明治二十二年君廿四歳の春類焼の厄に罹り次て同年十月祖母君と同十一月には嚴父君其の翌年正月には義兄三人が僅か三ヶ月間に病死せられたるが如き頗る悲愁慘憺を極むるに到れり。當時君の意中や茫然自失爲す處なきに到りしならん。君や大悟徹底する處あり勇往邁進茲に心機一轉して徐に家事整理の爲め止を得ず一時退社を決行したり。翌明治二十三年の秋横濱内國通運支店に再勤して同卅一年春まで九ヶ年間に亘りて恪勤を致せり、同年夏同支店を辭して歸京の後も飯田町驛（當時甲武鐵道八王子迄開通）に際し丸や宮田運送店を開業せしも時

恰も日清の戦役後とて大不況に遭遇し忽ち失敗せり。同卅二年の春營業を他人に譲り赤手空拳の人となり其の間一二の同業者の家に流寓せしが倖にも品川驛が貨物取扱の開始せらるゝを以て此の機を逸せず明敏なる君は三十三年三月茲に幾多辛苦を経過して第三次の運送業を創始したり。然るに失敗後と資本の缺乏信用の稀薄は一層君の痛切に感奮せしものなり。苦心の結果漸く親戚を頼りて僅か二百圓の融金を得て名ばかりの九品運送店を現在の地に開始したり。其資金は一脚の机と一臺の秤量と看板荷車と什器印刷用紙と披露の諸費に充當して餘す處數十圓に過ぎず、君の苦心や想像に餘りありとす。而も數ヶ月を経過して秋も過ぎ冬の頃多少發着貨物を得以て寂寞寥々たるものあり。雖然明治三十四年には村井工場現田町專賣局納め葉費運送請負等に從事して追々好況に向ひ明治三十五年大崎驛開始と共に支店を増設以て爾來二十年の星霜を閲みして力闘奮勵以て今日の優勢を築造するに到れり。又國家と社會とに至誠奉公の念厚く殊に日露戦役に報國盡忠の秋なりとして千辛萬苦廣島大本營部隊に輸送せらるべき官私の麵麩罐詰糧食被服防寒具衛生材料の軍需品にして苟も品川驛より發送の貨物全部を一手に取扱ひ又



は戦役各師團に還送の被服及戦利軍馬糧秣等品川驛を中繼させらるゝものは總て遺憾なく晝夜を別たす大多忙を極め寢食を忘れて利害を捨て大に奉公の誠意を披瀝したり。神武天皇祭は君の尤も深き記念たるもの明治九年四月三日嗚呼旺哉神武大帝の檀原に即位の祝祭日や而も斯の祭日は宮田君の感慨無量敬虔以て創業の記念日として祝賀すべき日なり又子々孫々に傳ふべき深き印象すべき日なり以て後昆の龜鑑するに足るべし。人生は意氣に感ず况んや苦心慘憺成功の曉に於て江湖に知己親戚子孫に店員に開業二十年の祝典を披露するが如き愉快欣喜雀躍たるべし。嗚呼大正九年四月三日は君や此の歡喜を實現せり。十年以上四名十五年以上三名の勤績店員を表彰して記念品を贈り併て店員一同にも記念品を與へたり。内宴の盛大と家庭の圓滿團樂や芽出たかりしなり。其の寒暖計を祝意記念として華客及び一般江湖に贈呈せしが如き以て記念たるべし。殊に令息彌一郎君温厚勤勉と孝養の人なり、家庭和氣愛々の間業界に雄躍貢獻せられつゝあり且つ君は摩訶般若波羅蜜多心經を手記して寺院に奉納して佛教を崇信する念や尤も深厚なり。宮田興運居士號を贈られたるが如き其慈悲心の深厚なるを知るべし。君の創

## 業二十年の祝歌に曰く

二たご世をめぐる祝の盃を

かさねかさね千世の千代まで

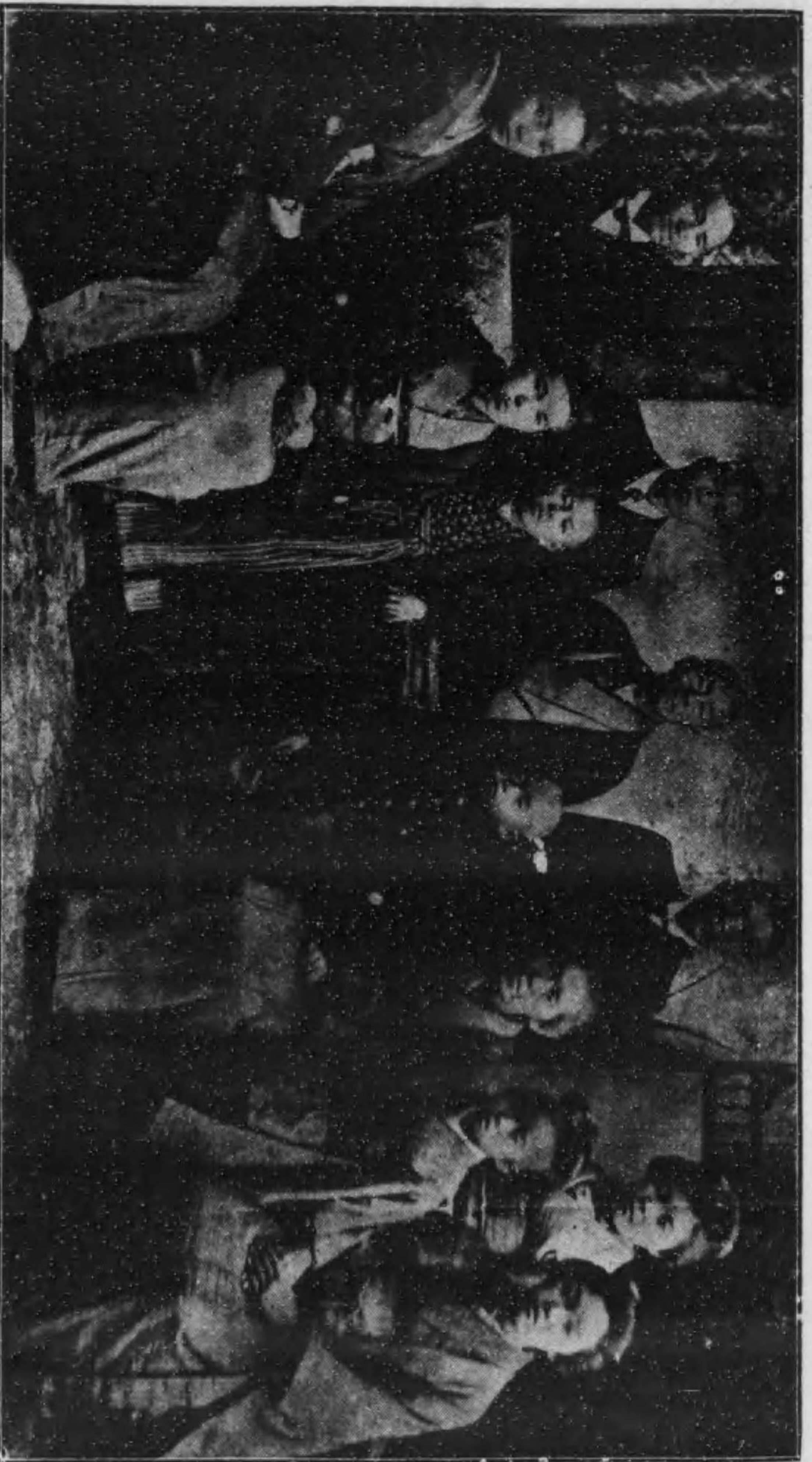
嗚呼品川灣頭の旭日汪洋として海波に映じて幾千代かけて君の壯圖と子孫と業務の繁昌を永世に輝さんとす。君の壽の長く健闘隆盛ならんことを双手を挙げ併て家門の禎祥の滋からんを禱るもの也



二十四雄傳





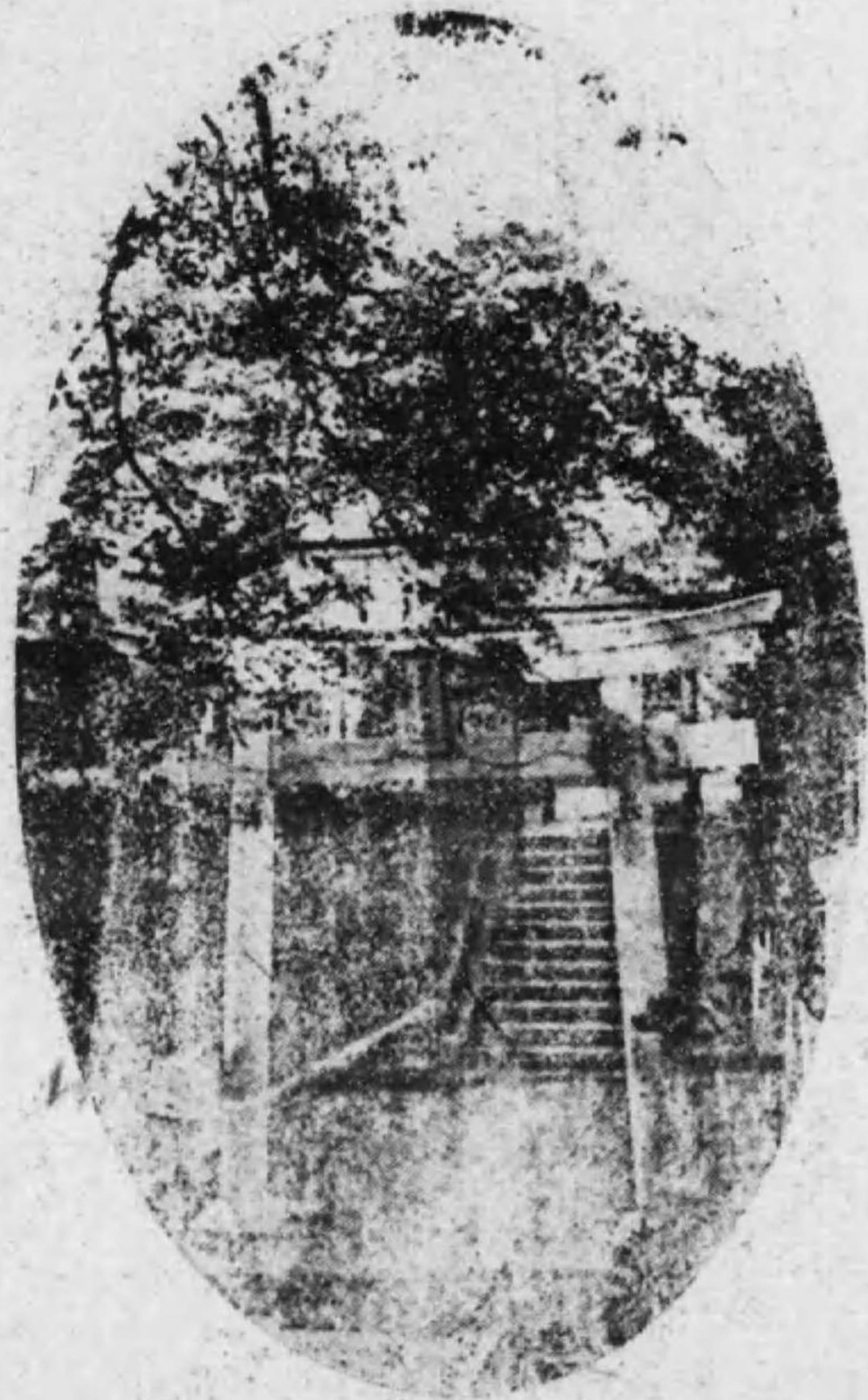


此寫眞ハ昨年九月一日ノ大東地震ノ災火ト濱市北村本宅焼失後二週ヲ經テ  
發見タル奇シキ記念物ニシテ向テ左列ノ北村由藏君ハ令息松藏君左列ニ  
目由藏君令閨花子夫人初トシテ其他北村親戚人々ナリ



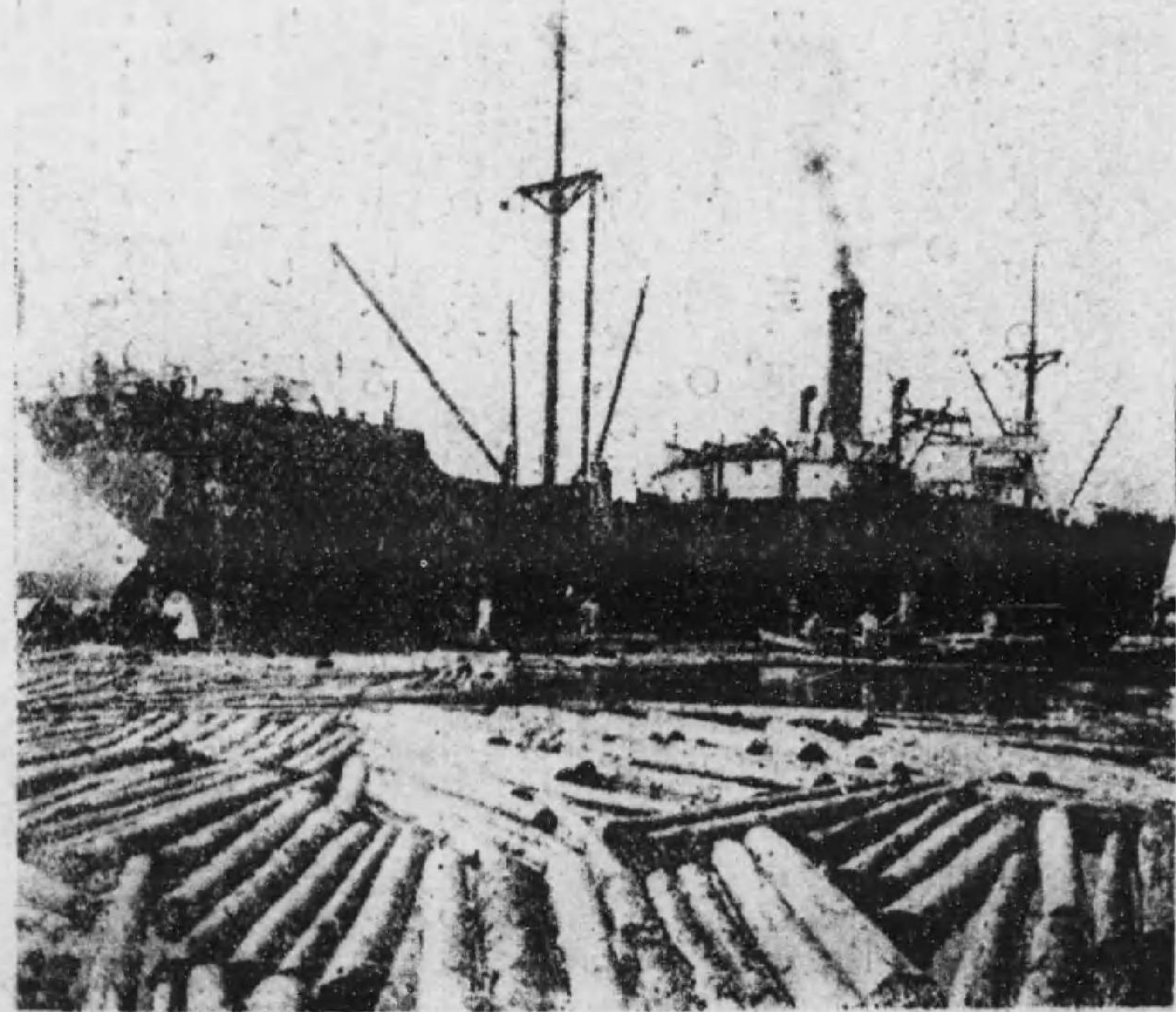


此の眞寫は北村由藏氏の生家

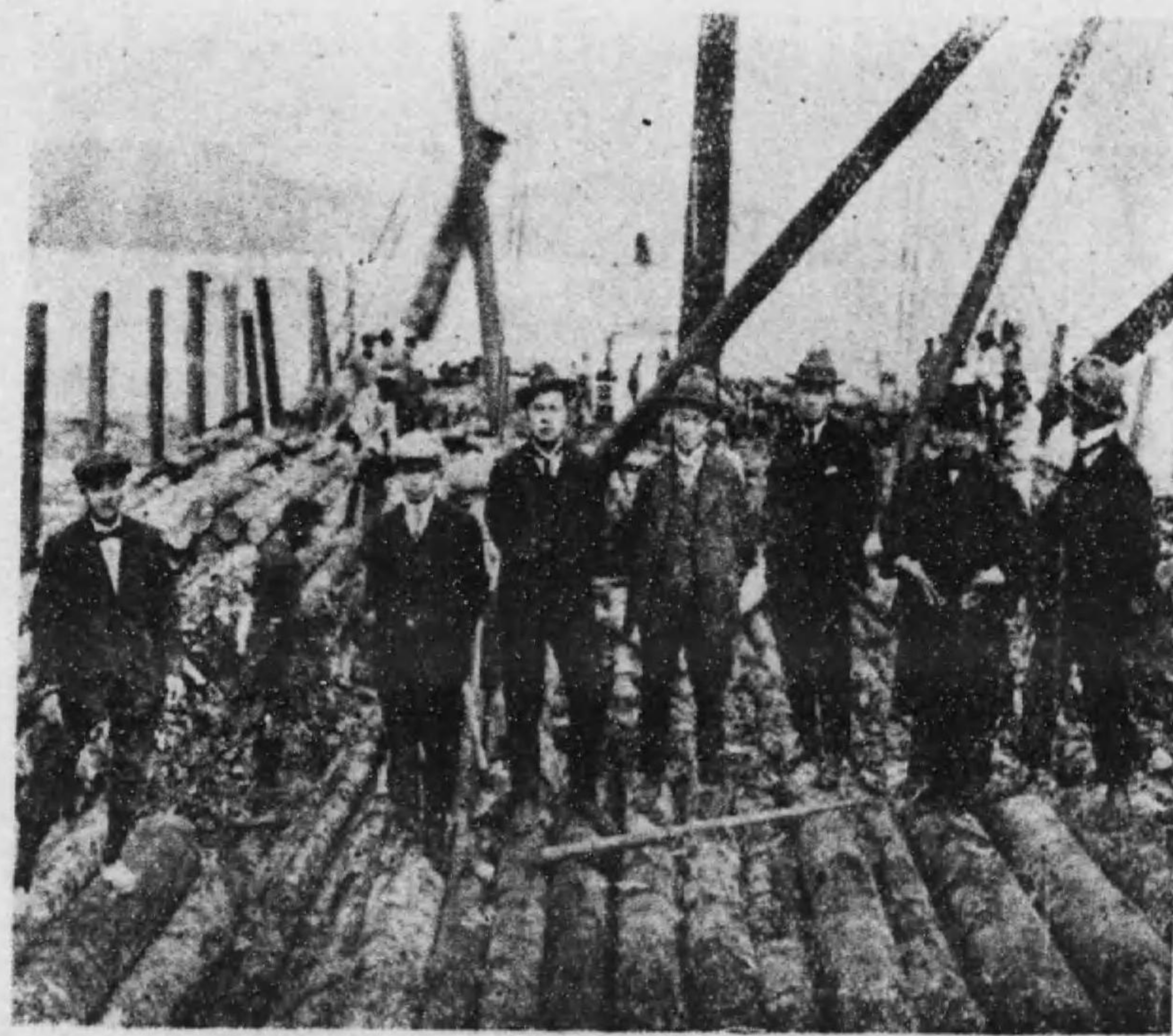


清水港金刀比羅神社に北村由藏  
君が殿父の遺志を繼承して海軍  
大將の揮毫の額と共に納献し  
たり居る





清水港に於ける北村回漕店木材荷扱の光景



此寫眞は清水港に於ける北村回漕店出張員其他の  
記念撮影也



## 北村由藏君傳の補彙（其の一）

丁稚小僧より身を挺して回漕界の覇者たる勤勉力行の結果、

赤手空拳以て築き上げたる富や參百萬圓

静岡縣清水港は帝國海陸運輸の便に於て自然的發展を促進しつゝある良港たり。斯港に麒麟兒の出生せるもの亦以奇しき現象なりとす。夫は現代回漕界に名聲噴々たる北村由藏君其人なり。君や嚴父清助氏が掌中の玉と愛せしが由藏君には五人の兄弟姉ありて長兄清吉、治助、まつ、常吉、由藏等の兒女あり。由藏君幼少當時寺小屋式の塾に僅か三四年通學の後ち、明治十年齡十三、川村兼吉と云ふ同輩と相携ひて飄然横濱市の松下回漕店に奉公に住み込みたるより以來非常なる勤勉以て三十有餘年間忠勤を主家に勵み遂に松下回漕店支配人たる重要な位置を占むるに到れり。

君は幼少より頗る勤儉心に富み來濱の當時や金壹圓六十錢を貯蓄し居りしが、親父より之れに金四拾錢の追加を受け金貳圓を所持して松下回漕店に來りて以來爾後一錢たりと

も父母より金錢を要求したる事なし。爲に親父は小遣錢を給與せんと申し來りしも夫れを辭退せし而已乎、妻君を娶る場合にも其所帶を持ち、費用さへ厄介にならぬ獨立獨歩の生活を以て世に處したる好人物なり。以て君の實質を卜知するに足るべし。

君は主家が不幸にして没落の運命に陥りたるを以て僅か九尺二間に借舎生活を爲し、北村回漕店を開始して、拂曉より徹宵以て業務に精勵し自ら店頭に立ちて従事員や人夫を指揮し諸帳簿を整理し、以て其の日の事務を終了するを恒とせり。偶々店用を帶び上京するも必らず徹夜以て歸宅し益々奮闘を繼續せり。今や成功の證左ば歴然として解九千噸と、各地には數ヶ所に支店、出張所を設置し以て斯界の霸王たり。君日常質素勤勉を信條とし、苟も酒や煙草を今に到りても喫飲せず、終始一貫今尙店頭に在りて業務の隆盛を策しつゝあり。殊に令息松藏君資性溫良讓遜、夙に横濱商業學校を優等を以て卒業以來父君に酷肖専心業務の旺盛を企圖せられつゝあり。松藏君令閨ひさ子は三保村折戸の素封家柴田家より嫁したる現代稀に見る學淑兼備の女性にして愛兒芳太郎君を擧げ家庭の人たり。由藏君夫人花子夫君を助け粽糠の妻として貞淑の譽れ高く以て好伴侶たり



清水港金刀比羅神社へ石鳥居寄進と大正大震災以降の北村由藏君の美舉善行及び舊主家への報恩と令兄姉親戚等への情誼鳥居獻納の動機は嚴父清助翁が存命中の宿望にして由藏君が其遺志を繼ぎ特に寄進せしもの也

尙鳥居建立式には文錢の表裏に金銀鍍金を爲し赤糸を以て結びて之を群衆に撒じて之を記念とせり當時の建立式や土地の紅褙數十名が餘興を添へ頗る盛況を呈せり

嚴父清助氏は敬神家とし律義の人なり。由藏君亦父君に肖て信仰家なり。君郷社金刀比羅神社に大正十一年七月二十四日石鳥居を寄進せり。爲に同町青年團や有志數百名は其舉を賛じ、木遣り音頭勇しく同年八月十六日を以て嚴肅なる鳥居建立式を舉行せり。流石は岳父の信心と相竝で永久に北村家の芳名を發耀するものなり。君や令兄常吉君を初

め親戚たる栗山長右衛門君等を護立して繁昌を爲さしめつゝあり、以て君の人情に厚きを知るべし。

### ○奉公中徹宵以て獨學せる北村君

君は丁稚奉公中松下店に在りて將來大志を貫徹せんには學問なくては産を治め名を成す事能はずと深く肝銘する處あり。各店員が寢に就たる後ち君は未明亦は徹夜以て獨學を爲し一日も休止したる事なき苦學を續けたりと。今や相當の教育を享けたる人々以上の誠見を備うるに到れりとは誠に感心すべき仁なりとす。

君は昨歲大震災に際し自家を顧るの遑なく公衆の爲救護に従事し以て庶人を保護せられたり。且つ横濱市が一瞬時にして焦土と化すや時を移さず解五千噸を提供し以て物資の輸送に任せ、一方同港運送業組合事業として貢獻したる功績や或は一身を罹災民救護に委ねたる如き行爲や特筆大書すべき功績や偉大なりき。或は清水港より速急バラック材料を輸送し以て應急的店舗建設に努力し倉庫並に各地の支店出張所を復興して業務を率先して開始せる如き敏捷なる行動や稱賛するに餘あり。或は神戸市より小蒸汽、解三千



嘔を購入せる如き勇悍敏活なる巨人と云ふべし。

君は平素主家の零落せるを造次にも心頭に刻みて忘る事なし。絶えず舊主遺族を慰藉するを以て常とせり。特に大震災以降尤も其の慰安に勉めつゝあり、爲に主家老母の如きは君の舊恩を報するに感涙せられ居れり。眞に人情布薄の時世に處し君の如きは忠孝兩全の仁と謂ふべし。

### ●北村回漕店には忠勤店員尤も多し

古語の所謂勇將の許に弱卒なしとは至言なり。其の店員には精勤者の屈指するに遑なし殊に會計主任高野吉藏君の如き北村君が松下店に支配人たるより股肱の人として尤も信用厚く、庶務主任藤原仙助君の如き海軍軍人として邦家に忠誠を効し武勳赫々の譽を博せる好紳士なり。今や北村君の厚遇と信任の許に店務に鞅掌せられつゝあり。清水港北村出張所主任早川政高、顧問柴田隆吉、北村吉藏諸君の如きは好人物たり。故に北村店居に濟々多士以て隆昌を計圖せられあり。是れ即ち由藏君の活歴史の反影にして要は由藏君の奮闘努力の資なりと云ふべし。偏に同店の盛大を祝福すると共に君が家門の彌繁榮せられん事を禱るや切なり。



北村由藏君

横濱市港町二ノ七

北村回漕店

電話員本局(二二二八)  
(四二五三)



令息松藏君

我が横濱に於て回漕業者の履歴を探究せん乎指を君に屈せざるを得ず、君は扶桑第一の靈山富岳を睨んで駿河國清水港に産聲を擧げたる人なり。其の性格實直と勤勉なると幼少より群童を抜きて英材なるを傳聞す君。明治十年以來松下店支配人として主家に事へ其の手腕と識見を發揮せし奮闘的人士なり。後ち君は獨立自營の事業を開始せしは明治



十年頃にして即ち今の本店港町二丁目七番地は其の發祥地なりき、當時の濱は微々たる漁村の荒野にして、白砂青松の間に濤波を漂はす光景や蘆荻海風に戦ぎて白鷗と千鳥の沙頭に鳴き囀るる亦偲ばるゝものあり。今や貿易旺盛船艦輻輳し高層に聳える各國々旗と洋館の瓦を並べたる繁華や之れ昔日の感や奈何、先見の明ある君は寢食を忘れ孜孜として勉め遂に幾奮闘商海の激浪を破りて王政復古の明治聖代には征南、征臺、北清、日清、日露、歐亞の戦亂を経て經濟界の逆流に棹して安全の彼岸に到着したる俊傑なりとす。君の苦心談をして與り聞くを得ば更に光彩陸離たるものあらん乎、君は年齢五十又七相貌美麗にして壯者の如し。以て君の青年時代の美少年たるを推知すべし。其眼と口は緊張し寡黙の質たるを知れり、雖然温平たる情や溢るゝが如し。亦公共に慈善に貢献せり。其の二三の擧の如き横濱市大正八年大火の如き救助金を義捐したる如き大正二年北海道外六縣凶作及同三年鹿兒島縣櫻島爆發の際罹災窮民へ慰問袋五百個を賑恤せし如き、東北九州災害救済の爲め小麥粉五百袋寄贈せし如き、帝國水難救済會へ博愛厚義の主旨に協同せられ名譽會員に列せられたる如き、善行義舉あるを以てす。今や神奈川千若町一丁目二番地に支那棉花組合の倉庫荷扱所に出張所を有するを始めとし、東京市日本橋區箱崎町一ノ一に支店を設け、營業項目は本船々内人夫、内外貨物輸出入京濱間全

線鐵道貨物取扱、各紡績會社送輸入洋麥、市内船、關東洲、青島臨時肥料内國汽船一切取扱等指を屈するに遑なき大發展を爲したり。君は常に綿服を纏ひ自ら店頭に立ちて關係各地の事務を總裁し數十名の店員を指揮して四十餘年一日の如し。其本支店にある店員には新進氣英の人々あり、又商業、中學の各卒業生あり相當の待遇をなして文明的回漕と公認鐵道運送業を經營せられつゝあり、君の勤勉や今や如斯其精力盛にして素志や貫徹したりと言ふべし。

故に立志傳中の一人として交通界人物とし位置と資産を作りて名實を完ふせる人と言ふ可きなり

古語に曰く艱難爾を玉にすとは眞乎君を謂ふ乎。君の壽を賀し事業の隆昌と店員優遇と更に創業祝典を近く開港記念と共に舉行せられん事を屬望して君の爲めに萬歳を祝するものなり





清水清四郎君

横濱市本町六丁目

合資會社 朝松組

電話本局局長(二二三五番)  
四一七四番

京濱鐵道の開通には幾多の稱賛す可き記念の産物と歴史ありとす。従つて横濱港には運輸交通界に貢献せし功勞者も寡らず然に君は群馬縣高崎市に呱呱の聲を擧げたる麒麟兒にして僅か七歳にして嚴父母に伴はれて夙に開港第一たる横濱の人となれり。其起舉動作普通人と異なるを推知するに足るべし。或は富士瓦斯紡績株式會社、三井物産外

各紡績の專屬取扱をなしたる履歴や其事業に着眼や明なり。或は東海會社即ち今の銘茶取扱に身血を注ぎ以て現今の旺盛を呈し組合の基礎を築造せり。爾後三十年間専心一意運送業に力を致して飽かず且つ朝松組の雷名が遠近に喧轟せらるゝもの偏に君の主腦となり闘將として籌策を廻らしたる效果や亦以て世人の知周する處なり。君資性溫諄義氣に富み今や君の知遇を享け苦境を脱し以て財を造り産を貯へ信用を得て相當の位置を掬ち得たる人々頗る多し。殊に祖父君又た公共に効勞ある人なりと聞く、斯の父にして此子あり、以て君の家庭や禎祥の滋きを知る可し。君は業界に於て曩には高島驛と東横濱驛に運送取扱人組合長たり以て名望と徳操あるを證す可し。又陰徳家として慈善に公共事業に私財を献捐せられたること枚擧に遑あらず且つ人情紙の如く布の如き時代に處して人の怨府とならず忠實業に服して博愛仁義を實現したるは稀有の君子人なり。其の事業の一斑を擧ぐれば横濱市本町六丁目合資會社朝松組代表社員たり川崎驛前には出張所あり公認運送店として且つ海漕業石炭業として隆名噴々たり以て君の靈腕と敏捷と信用の厚さと熱誠と義氣とが經緯となりて此の盛大を爲せしを證するに足るべし。君頗る温



情に富む寡言實行の人なり。君今尙ほ社頭に席を占め内外頻繁の激務に鞅掌しつゝあり庶人に接するや親切可憐温顔を以て殊に多數の社員及び労働者を信服せしむるを看ても君の徳望や崇敬す可きものあり。而して其近代の事業として特筆大書す可きは時勢に鑒みる處あり。勞資協調の模範を示さんとして、大正十年度人夫受負業たる鐵道作業株式會社を設立したるが如き義人なりとす。其目的たるや労働者の統一を企圖し其弊風を矯正せんとするにあり。而して同社創立當時の君の苦心や筆舌の逮ふべきなし、殊に義俠家として鳴る鈴木平八氏の如きは確に君の尤も志をなさしめたる人なるを知る可し。君の意氣や想ふ可きなり。君の如きは獨り業界の人として推稱す可きにあらずして國家的人物として稱賛す可き人物なりとす。古語に曰く積善の家必ず餘慶ありと。君の益々世道人心を救濟せられ亦以て子孫に福祉を遺して其の長壽を保ち盛名を竹帛に垂れんことを禱るものなり。眞に君の如きは名を後世に揚げ父母を顯はす仁と謂ふ可し。君以て健捷ならんことを



開榮商會主小林之進君

横濱市本町五丁目七十一番地

税關貨物取扱人

海陸運輸業

鐵道省公認運送取扱人

開 榮 商 會

電話本局 (長) 二四九八番  
三二二四番

振替口座東京九七二七番

東京出張所

東京市深川區佐賀一丁目一四  
電話本所二五八六番

自宅 横濱市青木町鶴屋町三四九七  
電話本局三八四六番

君は山口縣萩市松本に明治三年一月を以て呱呱の聲を擧げぬ。資性剛毅着實に富み、嚴父は萩藩士として由緒ある武士なり且つ篤學者たり殊に萩市は古往今來偉人吉田松陰先生出生の地として名高し爲に慷慨に富む志士の産する故ありとす。殊に故伊藤博文公の



如きも萩出生なり以て傑物の輩出する因縁ありと云ふべし

小林君は幼少より青雲の志を懐き父母の膝下を辭して青年當時既に大阪市に笈を負ふて第三高校當時文部省直轄大學分校に入り研學年あり遂に同校を半途にして退き夙に海運業の發展すべきを洞鑿する處あり吾が横濱市に二十年以前に來りて貿易及び海運業に留意して外國人經營の海運業に従事して幾多辛酸苦闘を經、多年蓄積したる敏腕を揮ひ既に大正六年三月に於て現在の營業を創始し大に税關貨物海陸運輸業に錚々の名を擅にするに到れり、且つ君は數十年來外國人に接觸せし人其の規律の正しく業務に熱誠なるは周知の事に屬せり。君常に商會に在りて山積する重要な事務を快刀亂麻を斷つ如く整理し自ら歐文、邦文、タイピストとなり其の敏速なるは斯道の大家を驚かすもの也。君や歐米の語學に通曉せる人なり今や君の學識と手腕と信用は事業の盛大と相俟つて時代に順應して旺盛を極むるに到れり以て君の如き文字あり人格ある好紳士が我が海陸運輸界に赤手を以て成功せるを祝賀するものなり。君健壽以て益々多伴ならん事を望む



渡井政次君

横濱市自動車株式會社取締役

横濱市伊勢佐木町西洋料理組合長

自宅 横濱市黄金町一ノ四

甲斐源氏の覇業は武田信玄に因りて遺憾なく發揮せられたり。以て山岳重疊と雄大の氣氛は儘に英雄の節を今尙偲ばしむるものあり

山梨縣西山梨郡里垣村に七百七十有餘年間に互りて代々名主たり戸長たる坂田家や眞に



由緒ある芽出度家柄なりき。同村は元三ヶ村を合併せし東光寺村なり。之れ故坂田與市左工門翁が心血を瀝き以て模範村たらしめたる歴史ある明治維新當時に於て翁が戸長として里垣村と改稱せし顯著の農村なりき。翁や名を晩年維新革新に鑒み正純と改め該村發展の爲に畢生の力を效し以て今に到りて舉村翁を徳とせり嗚呼翁の徳望や尊し子孫後昆以て意を強するに足るべし

坂田家に一俊才産じぬ名を政次君と云ふ君天稟の英氣と義侠に富み温情と勤勉の質にして明治九年一月を以て山梨縣里垣村に故正純君の次男として呱呱の聲を擧げぬ。君碌々として山村に終へん事を憤慨し夙に横濱港の發展せんとするを洞鑿し甲府中學を了へ決然として明治二十九年當時故渡井八太郎翁が川村屋號を以て明治八年には櫻木町公園に西洋料理業を開設し明治三十年に至り現櫻木驛に移轉營業當時政次君は八太郎翁の許に來り大に勤毘以て信用を擅にす。遂に愛嬢つる子の女婿となるに到れり

君や舅父の遺業をして益々旺盛ならしめ、今や横濱驛樓上を初めとし、櫻木驛前全公園並神奈川驛前に文明的西洋料理部を増加し以て内外人の稱賛を博するもの、偏に君の慧

眼の效す處なり

君は店員に對する寛恕を垂れ加うるに横濱自動車株式會社重役たり。同市伊勢佐木町西洋料理組合長として名高く且つ日本赤十字正社員、帝國工業株式會社取締役、横須賀海軍被服御用商として名聲を博するに到れり

其の勤績店員には二十一年以上の愛知縣人鈴木辰之助、横田銀之助、木澤宅次郎、楠知一、二宮茂吉、水島重太郎、細野富三郎、秀野晋次郎の諸君あり以て新進氣英に富み渡井君の股肱の人として克く主人に忠勤を勵みつゝあり。主人公たる渡井君の如きは以上の諸君が往々小過失ありと雖も之れを不問に附し寛容以て今日に至るまで忠實を効さしめたるもの優に好主人の雅量が心服せしめたる結果に外ならずと云ふべし

我が横濱市の如き人心輕薄に傾きつゝある地に於て渡井君の如き任俠家あるを稱賛すべき冠辭美詞なきを遺憾とすると共に其の美譽と成功とを摘記して君の將來の益々多祥ならん事を希ふ





君吉龜江直 役縮取務常

本社 横濱市高島町一ノ一

横濱市街自動車株式會社

帝國開港の魁たり貿易業の殷賑と文物輸入の開門たる横濱市に夙に交通の便利を策して市街自動車株式會社を創立以來幹部には取締役社長三村軍藏、常務取締役直江龜吉、取締役鈴木吉養、渡井政次、大村等、相原佐次郎、勝岡應助、監査役には赤井基次郎、

巴野兼吉、蝦名篤彌の諸君あり以て社業赫々隆々たり。大正元年度直江、渡井、鈴木、赤井四君合資會社を創立して旺盛を告げ大正六年二月之れを株式會社と變更して七ヶ年前財界順境に乗じて資本金壹百萬圓株數貳萬株を以て設立したるものなり  
其の營業種目には一、賃貸自動車 一、貨物自動車 一、自動車保管 一、タクシー自動車 一、自動車修繕 一、自動車製造を以て業としつゝあり。直江君は明治十九年を以て横濱市に生れ誠見と敏腕に富み資性謹厚にして克く理智に長じ優に斯界に於ける第一人者たり以故君は衆望を擔ひ常務取締役として社業を執掌し以て好成績を呈するに到れり。今や吾が横濱市に於て邦人計畫のホテル建設せるなきを慨嘆す同社を買収して一大ホテルを建設せんとして既に昨秋優美高尚なる設計圖と共に自動車部を附屬として株式會社設立計畫中なり必ずや其の好結果を獲めて吾横濱市に於ける理想的ホテルとして内外人の稱賛を博し以て公衆に利便を與ふる事は日を期して俟つべきもの也。殊に直江君の敏腕を揮はれ以て完備せる邦内有數なるホテルとして推賛せるゝならん乎茲に直江君並に同社各位の健捷と康寧を謳歌するもの也直江君の趣味としては謠曲に諳能なりと聞く綽々として飽まで餘裕の人と云ふべし





小笠原常次郎君

横濱市橋町三ノ六

沿岸人夫受負業運送業

中央運輸株式會社取締役

電話本局三九四〇番

艱難爾を玉にすとは之れを小笠原君に見る可し君は愛知縣智多郡常滑町の雜穀商家に生る。資生穩健温情の人幼時志を樹て十二歳の時上京彫刻家に就き十九歳迄勤勉努力せし好青年なり。而も時勢の進展に考察する處あり師匠を辭して諸縣を視察の上明治三十

六年中横濱市に來りて大決心の許に孜々營々人夫労働に従事せしも素より群少の器に非ず迅くも一頭を抜きて棟梁の任を以て推戴せらるゝに致れり。君克く上下に親交せられ以て君の實質や大器たるを知るべし。後ち北村由藏君の知遇を得て獨立沿岸人夫受負並に運送業を開始するに到り益々君の眞價を發揮せり。殊に部下に親切なり要するに君の幾辛酸を嘗めたる苦勞經驗の致す處なりと云ふべし。今や君の業務優勢を呈し大に業務の發展と信用を博し加ふるに中央運輸株式會社常務取締役任に推薦せられ益々君の敏腕を發揮するに致れり。君や温良の風彩沈着の態度加うるに奮闘自疆の活動家なり殊に内助として粽糠の妻君春子あり之亦た諸人に接して穩健着實の譽あり好伴侶たり共に勇奮以て業務の隆昌を企圖せられつゝあり。昊天君夫妻の爲に禎祥を祚する益々多々ならんこと。君は公共に慈善に労働者の爲に全力を濺いで貢献せられ、其の名譽として赤十字社員、掖濟會員として至誠を効せり。君や義侠と沈着とを以て名高し。夫人春子君は久敷東京市酒井子爵家に奥女中たりし律義貞淑の夫人なり殊に小笠原君を助け粽糠の妻たり茲に君夫妻の萬福と健全とを祝禱するもの也



下野小山驛前

内國通運株式會社取引店

中央計算所  
加盟店 西村運送店主

鐵道省公認

小池兵二君

小池兵二君

電話 十八番

振替口座 一五二三番



勤王の志士贈正五位小山判官朝政公の疇昔の居城たりし提封百萬石の小山は今や交通の利便拓け兩毛線に東北線に四通八達の町となり、其驛は一等驛として敏腕明晰の落合源次君の如き好驛長あり。現在驛員二百九十五名(大正十二年一月執筆)將に三百名に垂んとするのみならず八哩の縦横線路が十八哩に達せんとするの盛大を呈するもの同町の發展や慶賀すべし。

小池兵二君は資性剛毅果斷に富み明治十八年以來小山驛開始より今日まで獨力不羈已に飯野喜四郎君と共に交互計算を明治三十二年當時より主唱實施したる明誠の仁なり。君は安政二年小山町に生る。今尙店頭に在りて業務を指揮督勵せられつゝあり。君や夙に運送業の勃興すんとするを觀取して現在の地に陣容を張り幾辛酸苦心を經へて奮闘力戰以て盛業を遂けたる成功家なり

殊に山十製糸組の小山町に設置せらるゝの當時や君率先以て千五百名の女工募集に全力を傾注して實行を奏したる功勞者たり。又た山十組設立には尤も深き盡力者たり。以故一般貨物取扱の外專屬取扱として現に山十製糸組の專屬取扱店たり。其の名譽職には現町會議員として諛譎の議論家として遠近に雷名を馳せつゝあり。或は前消防部長、赤十字正社員、武德會員等にして丸通十一部會委員、宇都宮事務所管内評議員たり。以て君の性格と廉潔至誠の仁たるを知るべし。其勤績店員には古川金藏、荒川源八、左卷與四



郎の諸君は商工會より表彰せられたる善行店員を出せり。以て君の全豹を測知するに足るべし。業界の高山彦九郎として小池翁の奮闘史を稿して翁の壽の幾久しからん事を祈り併て嗣子勝三君の孝養を盡して乃父の業を勉張隅昌するを切禱す。



宮地進君

府下南千住驛前

電話淺草

七九〇番  
七九一番  
七九二番  
七九三番

國際運送株式會社隅田川支店長

隅田川驛公認運送組長

自宅 東京市淺草區橋場町一八二

客歲陽春の交著者運輸日報記者として筆を軻して東京驛を發し關西地方視察の途に着きぬ。夕陽將に西山に白き静岡縣濱名郡を通過せんとするや海洋と濱名湖を車窓に眺望して遙に辨天島の優勝を觀取し身心恍惚たるものありき。而も静岡は名將家康の産地として殖産工業の發達富嶽の秀麗と濱名湖とが名實を擅にするもの故ありき。富士の靈峰は自然的に偉人傑物を化成し湖水の洋々として潺湲たる聲や新進氣英の士を激勵しつゝあるものに似たり。静岡縣濱名郡可美村宇高塚に靈峰と濱名湖の氣氣を享けて一奇童の産じぬ。而も吾が業界の人として今や隅田川驛を振出すに盛名を博し辣腕を揮ひつゝあるもの又以て奇なる現象なりと謂ふべし。君や幼時郷校に學操優秀たり後ち明治三十八年法律研鑽の業を卒へ中央大學を出て芽出度歸郷の後ち精神の修養益々鍊達せり。君や明治十五年一月廿九日の出生にして年齢正に春秋高く再び多年研究の法律學と修養せる人格を以て明治四十一年日本運送株式會社隅田川支店長として劃策經營一意専心社務に健闘努力せられ既に十數星霜を閱せる理智に富む穩健家として機に敏捷なるは世人の知る處なり。君殊に勞働問題に造詣深く一方柳組の代表者として義人坂本君と共に偉績顯著なる篤學の士のみならず且つ名望家たり

君今や隅田川驛に於て明治四十一年度より組合幹事及前後數回組合長副組合長に選舉せ



られたるが如き偏に君の素質の致す處なりと云ふべし。若し八咫の靈峰と湖神の信精が君を玉成するあらば進んで業界の羅針盤として崇拜せらるべき偉勳を策せらるゝ期して疑はざるべし。君大に奮闘以て芳名を業界に輝かされん事を切望するものなり



常務取締役 隅田川支店長 鈴木愛作君

東京南千住町隅田川驛前

株式會社小林運送店

電話淺草二五一番

自宅 東京市淺草區山谷三七番地

君は明治八年七月を以て群馬縣碓氷郡安中町に生る。資性穩健頭腦明晰意志鞏固にして溫情の人なり。君の實家は幕府時代より藩主の御用命を便したる歴史ある問屋として遠近に雷名を轟せり。君教育家として有名なる新島襄先生と出生地を共にするを以て幼年より小學校に於て學術操行他學童に秀いで常に優績以て校を出て、或は英學塾に入り又は杉田傳道師に就き英學研究の結果泰西文物の進歩を看習大に發明する處あり。後ち君は郷里の驛前に於て運送業に従事する數年、大に斯業の邦家進展に密接する關係あるを覺知するや翻然として覺る處あり年齢若冠なりと雖も意氣衝天の慨を以て上京以來明治四十四年より大正八年迄獨立不羈備に辛酸を嘗め艱難と闘ひ隅田川驛に堂々たる陣容を張り業務の擴張を企圖せる敏腕家なり

◎小林運送店と君の奇縁 小林の性は元と君の本家なり今日株式會社として隆名赫々たりと共に社長鈴木五三郎君の徳望や手腕と相伍して盛運なるもの偏に小林家の縁因と禎祥とが原因を爲したるもの尤も多しと聞く、加うるに小林運送店が株式會社と變更せらるゝに際し現社長鈴木君令妹が不圖愛作君の令閨となりて茲に義兄弟の縁故を結び相呼



應して優勢なる小林運送株式會社の成立を出現したるは頗る慶賀すべき現象なりと云ふべし

其の組織變更の動機や大正九年三月に於て令兄五三郎君の事業と愛作君の事業を合併して株式會社となし以て社長には令兄五三郎君、常務取締役は愛作君の就任を見るに到れり以て愛作君の敏腕と業務に精通するを知るべし。組合前後の名譽たるや君大正七年度に於て公認制度實施の當時に際し君推されて組合長の要職に在り其制度の改良に發達に貢獻せられたり。明治四十一年以來同組合の幹事として今尙終始變らず組合の爲に盡粹せられつゝある人なり。以故君の勢力と德望とを窺知すべし

主なる取扱貨物と得意の一斑として日本セメント、小林ライオン、小倉常吉君等の會社及己人の得意を經緯として益々信用を博し社務盛大を致すもの偏に君の奮勵勉強の資なりとす。君益々成功せられて業界第一の月桂冠を戴かれん事を祝福するものなり



支店長飯塚亥之吉君

東京府下南千住町隅田川驛前

株式會社丸明運送店隅田川支店

電話淺草一一四一番

隅田川驛公認運送組合副組長

柳里恭の句に曰く人間吏となる亦風流乎哉の句移して以て飯塚君に冠すべし。君性格溫良にして理智に富み當世稀に見る好紳士なり。君は群馬縣前橋市に明治二十年十月を以て生る。幼時より言動大人の如く小中の庠序を優績を以て出て日本鐵道會社に入りし



を前提に或は鐵道廳に職を奉ずる大正七年度に亘りて高崎鶴見横濱品川の諸驛に敏腕を揮ひ公衆の利便を圖り以て邦家に赤誠を捧げたる良官吏なり

◎掛冠と思想の實現 官に在りては至誠以て交通運輸の激務を處理して整然として治績を擧げ些の毀貶の聲を聞かざるのみか上下に對し公明正大俯仰天地に恥ざる態度を以て官界に終始し以て模範を垂れたり。君時勢に鑑みて運輸の業たるや尋常の事業に非らず今や世界的關係を有するものなりと翻然して感奮挺身業界の改良發達に貢獻する念勃々たりき。時恰も好し現丸明運送店に於て君の閱歷敏腕人格を羨望聘して尤も業務の繁激と貨物の輻輳する隅田川支店長たらしめたり。而も快刀亂麻を斷つの辣腕と十數年來鍊磨蓄蘊せる靈腕を遺憾なく發揮し以て嶄然として緯績を呈するに到れり。之れ獨り君の爽快とする處に非らずして同社の爲めに君を擧げて該支店に長たらしめたる明敏を祝するもの也。君や夙起遲寢業務に精勵奮闘せられつゝあり。君の如き官吏より民業に移りて融通の利く人は實に稀有なりと云ふべし

◎社會奉仕事業として食料品株式會社の設立と其の宣傳に勉勵 人口の増殖と生活問題

の熾烈を極めつゝあるは世人の齊しく憂慮する處其の生命を全うせんとするに際し米價の暴騰と下級民の生活と勞働賃銀と其の家族生活と尤も深甚なる關係を有するは既に爲政治家も志士も慨嘆する處なり。殊に隅田川驛の如きは石炭、肥料、木材、鮮魚の荷物夥を占め之れに従事する人夫は夥多なり。従つて家族の慰安は第一に米價の安値に存す。君は昨秋北海道東北地方へ社用を帯び出張の砌り東北地方米穀の安價と北海道の薪炭魚藻の豊富に留意して其の直接輸入の低廉なるを以て食料品安價販賣の實を擧げ専務取締役山田榮三郎君と共に南千住町に資本金參萬圓拂込の株式會社を創立し白米の廉賣を開始せられたり

其の主義とする處は薄利多賣にして公設市場の如く時間を制限せず少莫の米と雖も親切に誠實を以て廉賣せられつゝあり。今や着々として淺草光月町、本所松倉町、横川橋際吉原大門中央南側、淺草龍泉寺町、鐘ヶ淵等に賣店を設け順次新宿方面に亘りて宣傳實行せり。君一方には業務の繁激に處して廉賣の社會的奉仕事業に熱中しあり人情浮薄の社會に處して仁人君子として稱賛すべき仁なり。業界の爲に如斯義人の出現を謳賀するものなり

◎君の副組長とし幹事としての功勞 隅田川驛公認運送取扱人組合は改良發達を策する



頗る意を致すと雖も不幸にも往年組合員間に紛擾を生じ久しく結んで解けざるに際し、君は副組合長として時の組合長佐藤清次郎君と幹事鈴木愛作君と共に焦慮穩健公明なる態度を以て遂に圓滿なる解決を告げたる徳望家なり業界に君の如き仁あるを双手を擧げて欣喜するものなり。君大に自愛自重健闘以て盛名を博せられん事を冀ふものなり



大森辰三郎君

東京府下南千住町隅田川驛前

### 常盤運輸店

電話淺草(局長)八四一  
八五六番

中央計算所評議員

前組合幹事長

千古萬世江戸より東京と名は變れども隅田川の流れや滾々として濁れず曠茫千里の沃土は交道發展に伴ひ隅田川驛の出現となり人口滋く運輸頻繁の地となれり其の進化と發達の迅速なるを謳賀すべし

隅田川驛前に洋風の建築に金文字を以て山久の商標と常盤運輸店の名が衆目を引くならん。是れ即ち本文の主人公たる大森君の奮闘力戰の表徴なり。君眉目秀麗風姿肅然動作沈着社交に長けたる好紳士なり。其出生は茨城縣多賀郡高岡村素封家佐川兵七翁の三男なり翁は明治十三年松岡村手綱に老後を樂しみ兒孫の爲に好々爺たり君は兄弟と姉君あり。君明治三十八年より大正三年まで丸加木材運送店に入り敏捷なる活動を爲したりき。要は君の資性の明敏が今日の成功を見る素因と云ふべし。或は大正七年度に於ては丸炭合資會社を買收して獨立の商旗を翻し以て驍名を走せ非凡の行動を現せり。君大正三年以來業界の人として成功せるは異數と云ふべし

其の主なる取扱貨物としては全國に亘りて木材薪炭多きを占む。尙ほ舅君熊吉翁は醬油釀造家として以て名あり。愛娘波子窈窕花の如し掌中の玉たり。性従つて伶俐今や君の夫人として淑徳あり業務を補佐して隆昌を致せり好伴侶なりと謂ふべし

君は組合幹事として貢獻せられたる人或は帝國水難救濟會名譽會員在郷軍人後援會名譽



會員同仁會員として公共に盡瘁せられたるは枚擧に遑あらざる篤志家なり。君春秋に富む益々奮勵以て芳名を業界に輝されん事を祈るもの也

七六



川岸組主 鈴木平八君

神奈川縣神川町神明町

川岸組

電話本局一一四二番

義侠家を以て鳴る君は明治元年十一月五日を以て横濱市青木町に生る。祖父は炭問屋として鳴りし家柄なり。父君亦資産と義氣に富みたる人なり。君は故あり令姉の家を相續せ

しも實家は中田姓なり。君生來氣侠の權化とも稱す可き乎一旦然諾せし事は之を反古とせることなき人なり。青年志を樹て、海事の重んず可きを洞觀し船乗となりて幾辛酸を嘗め盡せり而して常に非凡の行爲を以て儕輩を凌駕せり。殊に相武の地は歴史的關係上東海道の咽喉として沿海既に船舶が出入して維新の序幕が開かれ革新時代の曙光を認めたりし君は而も人心武より實業に變轉せんとする機會に着眼するや青年當時決然船乗となりたるも如何で些々たる一船乗輩を以て甘ず可き哉

君は六代目の川岸組主として今は温情と義氣を以て立つと雖も明治十年元來川岸組なるものは財産家の組織せしものにして従つて義侠に加へて恒心ある人々の結束なるを以て其の正義を奉じて船乗より其の名譽ある川岸組主となれり以て尋常の事に非らず。當時川岸組の實質たるや船頭と人夫の統一を圖り之れをして文明的に善導せんことを最初の計畫なりき。實に偉大なる個人的經營として稱賛す可きものなり。殊に従業者は海に陸に生命を犠牲として活動するものなり。故に往々死傷疾病者のあるあり之れを救濟する必要を認め醫療に或は轉地療養に態々名古屋の淺井等に於てす。而も部下千人に近く僅か一人より就業日に於て僅々一錢の歩合を得て疾病負傷疾者を救護するに到れり。故に一歳二千圓餘は君の囊中より支出せられるを以て常とす故に部下の君を見ること赤子の

七七



慈母に於けるが如し。聲令行はるゝ故ありとす君を稱して今幡隨院長兵衛と綽名せり。君や江戸時代に於ける親分連とは今尚頗る意氣投合其の記念たる、いろは四十八組の纏の内にも歴史ある纏を額に彫刻して君に贈呈せられつゝあるを見ても如何に俠名の轟き渡りあるかを推知せらるゝものなり。或は水難者の頻出するを憂ひ難波船や人命救済の先鋒となり救助機關を設立し以て船舶人命荷物を救護し或は往年米價暴騰に際し神奈川藝妓見番を代表し救済金八百圓を義捐せし廉を以て縣廳より銀盃を下賜せられたる等枚舉に遑あらず或は私立消防を設立し現神奈川町の珍奇として之が組頭たり或は下町若衆の推戴をする處となり之れが取締たり、一朝神奈川附近に火災水難あれば君は率先して至誠其の義氣を披瀝せり故に君の印半天は無言の内に公共と義俠とを双肩に擔うて誇りとするものなり。其の司配經營の一般を擧ぐれば松下久次郎君の豆糟工場、横濱倉庫淺野造船所、會社の人夫受負の獨占者たり以て信用ある義俠の致す處たり殊に勞働問題の等閑に附す可からざるを見るや人夫受負業の密接なる關係を有する勞資協調を實現するに留意し清水清四郎君等を佐け共に鐵作業株式會社設立に盡瘁す遂に其の成立を見るに至れり。實に君の力大に與り有りと云ふべし。而も君は其重役たり且つ人夫受負事業たるや單に金錢や威力のみを以て支配す可きものに非らず要は義心と慈愛に歸因す君の

今日まで部下をして心服せしめたるもの優に無形の巨資たる義氣の賜なり。千古萬代房相の海洋は濤聲絶えさるが如く君の俠名義烈は長く絶えざる可し。我が神奈川に君の如き義俠家の在るを祝するものなり君以て大に益々斯業の爲に盡されんことを



北 條 喜 作 君

東京市芝區芝口三ノ一角  
鐵道省公認運送店

武 相 組

電話銀座 長二一〇番  
二八五番

滿都群衆する中心点たる新橋驛を目前に眺め全國に名たる汐留驛を數間の後方に控へ



都人衆の注目以て山玉印武相組の名を唄はるゝもの實に慶賀の到りなりと云ふべし。其の主人公や幾多の活歴史を有する苦勞を嘗め生死の巷に出入し以て天命を保全したる剛毅淡泊なる氣象豪邁にして義侠に富む北條君其の仁なり。君静岡縣庵原に生れ前古未曾有の日露の戦役に參加して邦家に至誠奉公を捧げ以て叙勳の榮譽をを捷ち獲たる忠臣也君幼時より大志を抱ける偉傑なり遂に上京を決意して幾多の奮闘努力を繼續の後も現在の店舗を創設して運輸業を開始するに到れり

君資性温健諸人に對し情誼に厚く圓滿なる性格を有する好紳士なり。以て今日の成功を見るに到れり。其の勢力範圍として大坂市北區上福島一ノ三八七番地に支店（電話土佐堀三四三一番）日本橋區伊勢町米河岸、横濱市相生町丸玉東相組等の出張所荷扱所あり横濱市には主任に落合君の如き敏腕家のあるあり以て業務の隆昌を呈しつゝあり而も武相組の驍名や北條君の名と共に赫々たり君業界の勇將たり日夕店頭に在りて理智と穩健と熱誠とを以て信用を嵩め業務に執掌せられつゝあり。眞に君の如きは精力絶倫克く公平なる長者とし成功家として奮闘せられ在るを謳賀すると共に斯界の驍將として敬意を表し併て君の大に健闘せられん事を熱望す



店主 小 山 彌 三 郎 君

東京市芝區芝口汐留驛前

鐵道省公認

中央計算所加盟店

### 和田組運送店

長電話銀座二八五二番

帝都運輸界に明治十年創業以て尤も古き歴史を有する和田組運送店の芳名や遠近に公知せられ従つて信用と業務の該博にして繁昌を極むるに到れるもの業界の新人たる彌三郎君の敏腕明智の効す處なりとす。殊に舊店舗陝隘を告げ昨歲隣地家屋を買収して優美高尚なる和洋折衷の二階造店舗を新築せられ、加うるに前面は有名なる汐留驛と構内を扣



へて益々業務旺盛を呈しつゝあり。之れ創業の古き歴史ある点に非らずして、現主人たる理智と温情と經驗に富む主腦者たる小山君の明敏と勉強とに夙因する實なりと言ふべし。

野州は那須嶽の秀靈と日光廟と中禪寺湖と鬼怒川等を以て著名なり。而も山岳と湖水、河川の雄大は自然的偉大の人物を産出する、今更洋の東西と時の古今を論せずして知る處なり。

栃木縣鹽谷郡箆根村字關谷は寒村僻邑にして今尙百軒の戸數に過ぎず且つ山野溪谷の間住民純朴にして總て農を以て業とせり、斯の僻村に明治十六年を以て孤々の聲を擧げたる小山君は嚴父徳太郎翁の長子として掬育せられたりと雖も生家は農業を以て生計を營むのみならず殊に小山君の家は單に關谷の一軒屋にして寂寞を感ずる間、君幼少より郷校通學の側ら健氣にも鋤鋤を執りて稼穡の道を勵み以て家道を繁昌せしめんと努力せる好青年なりき。然に君は都合上分家するの事情に遭遇するや痛切なる辛酸を嘗め以て二十五歳まで農村生活を繼續せられたる苦勞人なりき。

君資性温厚謙遜に富めり突如明治四十二年度鋤鋤を捨て、上京現和田組運送店に二十五歳より業務激烈なる業界の人とはなれり。今や幾多辛酸苦闘の結果和田組運送店主として功績顯著なる而已ならず其の取引關係に於て信用厚く斯界に重要視せらるゝに到れり之れ所謂孔夫子が十室の邑丘が如き者ありとの如く小山君は寒村僻邑に生れ飄然として上京以來誠實勤勉以て熱烈なる業務に執掌せられたる結果今日の成功を奏せる純朴なる奮闘努力家なり。

其の著名なる取引關係には古河電氣工業株式會社及び古河鑛業株式會社、日本郵船、帝國酸素株式會社、細沼萬年筆株式會社等の一手荷扱を以て大正九年以來今日に及べり。君氣象淡泊義氣に富む前途有爲の好紳士なり。茲に業界の新人として小山君の已往今來の苦心力行を叙して君の奮闘一層の成功を禱るもの也。





代表取締役兼配人 天野久助君

君は愛知縣寶飯郡豐川町に明治九年九月を以て生る。資性恭謙温諄にして忍耐事に處する仁なり。明治三十一年一月を以て志望を懷き上京して親戚朝松組主業界の耆伯として屢々神田區會議員たり労働者の同情者たる藤田虎次郎君を便りて新橋朝松組に在り、君

一躍支配人として敏腕を揮ふに到れり。君性質義氣に富み艱難辛酸を経たる人克く上下の氣風を察知し調和する良紳士なり。君大に感奮主唱以て明治三十五年十月中京濱組合運送部を創成以來更に株式會社と變更して資本金拾萬圓とし同社の重鎮として驍名を越せ社業の盛大を效せり。其の代表取締役兼支配人の總責任の重且大なるに、汐留運送株式會社取締役船株式會社監査役等の顯要の重任を負ひ以て素志を貫徹せり。而も君や年齢春秋に富み意氣旺なり。加うるに現下労働問題の熾烈を極むるに際し温情主義を以て時勢に順應しつつあるは稀有の好事業家たりと云ふべし。君や敏捷の人益々知能を發揮し以て業界に令名を耀されん事を切に冀望すると共に同社の隆昌と君の奮闘健在を熱望して止まざるもの也

東京市汐留驛前

汐留運送取扱業組合副組長

丸京株式會社京濱組合運送部

電話銀座 三七七五番

四〇四七番

自宅電話芝二四五三番

振替東京一四三六七番





社長 村田 助次 君

字都宮市川向町(宇都宮驛前)  
鐵道省公認  
明治運送株式會社計算加盟店  
中央計算所加盟店

大商組運送株式會社

電話 九 五 六 番  
振替口座 四三一七〇番

同社は大正三年當時大湊、大塚兩君の共同經營に成りしも時勢に鑒みて合資會社と變更  
以て斯業を勉勵大に好成績を擧げたるも尙進んで大正十一年五月に於て法人組織に擴張  
して株式會社と變更業務頗る發展を呈し其の資本金拾五萬圓は尙且増加せんとするの盛

況を呈するもの優に兩君の信用と熱誠と敏腕の致す處、且つ幾く凄慘を譚りて餘ありと  
す。大商組の滯觸たるや大湊、大塚兩姓の頭字と大正の年號の正と商との同音なるを以  
て命名せるものなりと。流石商才に通適せる目出度商號なりと云ふべし  
社長村田助次郎君は宇都宮市の素封家且つ名望家なり醬油醸造業を以て名あり以て同社  
の重鎮たり



常務取締役 大湊 茂七 君

大湊茂七君明治七年十月栃木縣  
河内郡古里郡に生る。資性溫良  
篤實以て名聲を博しつゝあり。  
祖先是古里村に於て大庄屋たり  
君曩年煙草元賣捌人として信用  
と實質を具備せる好紳士なり。  
後ち七名の同志と合共を實行し  
て代表社員たりき。以て君の德  
望と性格と勢力とを卜知すべし  
今や大商組の常務取締として英





常務取締役支配人 大塚久作君

八八

名を走せつゝあり。君は一見して徳望の仁。以故同社の隆昌する當然なりと云ふべし

常務取締役支配人大塚久作君は明治十年三月を以て栃木縣芳賀郡に生る。君幼少より群童と異なり氣英に富み好青年なりき。夙に十七歳の當時鬼怒川を利用する親戚坂本運送店主が回漕業を營みあるを以て同店に入りて備に辛酸を嘗め二十歳まで奮勵

該業に従事勤勞せる人なり。殊に同店主より模範的功勞者として彰表せられたる好人物なり。君庶人に接する公平無私懇切を旨とし事物に接して敏活、秋毫を見るの明識あり稟性英質氣才横溢勤家たり。以て同社の柱石として眞價を發揮しつゝあり。世人君を稱して大公望と綽名せり眞に適評なりと云ふべし。君や宇都宮事務管内に於ける業界の

花形と評されつゝあり

同社は大湊君の温厚君子と大塚君の智慧家とが經緯となり社務に熱誠以て鞅掌努力精勵するを以て些の遺策なく旭日昇天の勢力を呈すもの當然なりとす

同社重役には取締役村田助次郎、大湊茂七、大塚久作、宮澤政藏、大森勝之助、杉本利七、善野喜平、大川善吉、小平重吉、監査役福田代造、田中千代吉、鈴木嘉平諸君あり孰れも同地方に於ける錚鏘たる有力家たり其の株主諸君の勢力と共に社業赫灼として業海の燈明臺たり、切に同社の倍々盛大ならん事を希ふ

同社營業は一般貨物取扱の外、專屬取扱として鹽專賣局の御用命を拜受するの光榮を有す

其の勤績社員には十年以上の精勤者篠崎市三郎君の如き在るは頗る珍重とすべし。特に同社が驛前に宏壯の營業所を建設して現在の追想深き幾戰歴ある記念の建物を附屬營業倉庫とし大發展せられん事將に近きにあらんとす

夫れ大湊、大塚兩君大々の發奮以て社業をして一層旺盛ならしめん事を希願するもの也





專務取締役 淺井新九郎君

鐵道省公認

國際運送株式會社取引店

明治運送株式會社加盟店

中央計算所加盟店

上州高崎驛前

### 信永運輸株式會社

電話 一四番

高崎驛運送人公認組合長

同社は明治三十三年法人組織として地方發展に資し有力者が株主となり創始せられたるもの其實質と信用の該博なるを告知すべし

淺井家は高崎藩士として嚴父故貞光翁まで家老として誠忠恪勤を效せる家柄なり。又た

守家なり。翁や性格武士的典型の仁其嚴肅の家庭に成人せる令息新九郎君克く父訓を遵名地方に重きを措かれつゝある紳士なり。資性謹厚剛毅にして夙に青雲の志を懷き青年にして東都に笈を負うて獨逸協會に入り獨學を研鑽優績を以て卒業の後ち側ら漢英の塾に學び以て人格と學識とを修養鍊達せる人なり。君明治五年九月十日を以て高崎市に生る爾來市政革新發展に貢獻努力せられたるは周知に屬す。君や興望を負ひ今や市會議員商業會議所議員として敏腕を揮ひ令名を擅にするもの偏に君の素質の致す處なりとす。我が業界に君の如き有道の士あるを欣幸とするものなり。殊に同社は一般貨物取扱の外日本製粉株式會社專屬として業務の隆昌を呈しつゝあり。君は中央會代議員たり以て上州の雄鎮として新九郎君の前途に光明の發揮し一層盛名を博せられん。君曩年後藤新平君に假寓して信用を博せる人なり。其の趣味としては大弓大和流の名手たり。切に君の健闘を祈る





小池新作君

明治運送株式會社取引店

鐵道省公認運送取扱人

小山驛前

### 三井運送店

電話 二番

自宅 電話百二十二番

小山町は人口一萬三千有餘思川の鮎漁を以て名あり。其の殖産には製糸場を以て遠近に山十大和組、林組の雷名を轟しつゝあり小山町は從來の驛構内の八哩線路も大正十二年度には十八哩となり驛員百九十名餘も將に三百名に垂んとするの發展を近き將來に實現

する優勢の町なり。従つて交通運輸の利便や益々繁激を呈するもの故ありと云ふべし

三井運送店は土地の名望家たり素封家たる小池新一郎翁が明治十八年度に於て日鐵會社時代小山驛開始當時運送業を地方開發の爲に創始せられたるものなり。翁は生前小山銀行、下野農商銀行重役或は小山倉庫株式會社創立に盡瘁せる仁殊に小山便郵局長として遞信事業にも功勞ある仁なり。大正三年惜乎哉逝去せられたりと雖も翁の徳や尊く町民の頌贊して餘ありき。今や令兄榮治君現郵便局長として父君の遺徳を嚴守精勵せられつゝあり。

小池新作君は明治十一年十一月を以て小山町に生る。資性謹厚孝悌にして仁俠に富み且つ青年時代笈を負うて上京郁文館中學に入り螢雪の窓に研學の後も好成績を以て同館を卒へ或は明治大學校友として實業界に雄飛せられつゝあり。君は尤も鐵道と町治上に重きを以て目されつゝあり。小山町會議員に當選以還三期下都賀郡會議員所得稅調査員等の名譽職を双肩に擔うて郡制町治に將た殖産工業に育英に貢獻せられつゝある好紳士なり。以て君の性格と勢力とを卜知するに足るべし



重なる會社重役として帝國サーダー株式會社監査役、大正精米株式會社東明堂監査役等なり

支配人古谷馬之助君は元と小山町の素封家たり現消防部長たり以て其の全豹を推知すべし且つ店主新作君とは竹馬の友たり往年肝膽相照し意氣相投じ以て相協力して三井運送店を一層盛大ならしめんとして支配人たり。熱誠と専心努力の許に今日の隆昌を効せり同店は一般貨物取扱以外、大和組、林組等の専屬取扱を以てせり。其の勤績店員五月女熊太郎、石川萬吉兩君の如き關東運送業同盟會長飯野君より表彰せられたる善行者のありあり以て店主と支配人との温情主義と斯の勤績店員等の熱烈と努力とが倍々盛運に進展する亦以て當然の賚なりと云ふべし。大に同店の前途の禎祥の繁けからん事を希望するもの也



勳八等 田中久三郎君

鐵道省公認

內國通運株式會社取引店

中央計算所加盟店

橫濱火災<sup>海上</sup>運送保險株式會社代理店

埼玉縣上尾驛前

田中運送店

電話十六番

田中家は埼玉縣比企郡小川町にして祖先是村總代素封家として令名を博せり。嚴父鍋八翁は農業に従事せる人なり。令息久三郎君青年當時夙に運送業の勃興せんとするを洞觀するや、十五歳の時川越町運送店の小僧となりて勤勉努力せられたる奮闘家なり。明治



三年十月十九日出生の人資性謹厚勉學且つ二十歳當時上尾に來り叔父田中良三君の支配人として多年蘊蓄せる實驗を發揮し以て叔父君の事業を旺盛ならしめたる敏腕家なり。殊に同店は大正五年三月以降久三郎君獨立經營となり内國通運本社と直接取引契約締結の上業務頗る盛況を呈しつゝあり

久三郎君は日清と日露の大戦に参加し邦家に忠誠を捧げ勳八等白色桐葉章及び一時賜金を拜受せる忠君愛國の士なり。君は業界には前上尾吹上驛間組合幹事として功勞ある人現内國通運株式會社十九部委員たり其の性格の温和と努力は以て成功家として業界の龜鑑たるべし

令息義知君は齡二十七資性沈着父君に肖て好人物たり郷の庠序及び蒲和中學卒業後正教員として上尾小學校に教鞭を執り或は一年志願兵として麻布第三聯隊に入營せる人なり現上尾青年團長として青年間に推戴せられつゝあり。君父業を旺盛ならしめん爲め今や在家以て印半天を着し店員と相伍して自ら貨物運搬等に從事せられつゝあり。令弟利安君師範學校卒業現川口町小學校教員たり。長女光子、次女愛子、三男恂吾の諸男女あり

て家庭頗る圓滿なり

忠勤店員には飽津治郎吉安政四年出生の人三十六年以上の精勤者として中央會より既に銀盃贈呈と表彰せられたり

店主久三郎君は自己が少年より幾辛酸を嘗めたる經驗あり店員に對し溫情に富み以て業務隆盛を呈せり。殊に令息義知君の如き孝悌者あり以て好伴侶として業務を盛ならしめつゝあり。久三部君の趣味として讀書を以て最とし、其の藏書の一室に山積しあるを見るも其の性格と人物の善良にして理智に長せるを卜知するに足るべし。君の生涯や頗る意義ありと言ふべし。君夫れ益々健闘以て社會公共に一層盡瘁せられん事を





山崎健一郎君

東京市日本橋區蠣殻町一ノ四

### 伊勢富回酒店

電話濱町 一七二五番  
一七二六番

日東帝國回漕界の泰斗として令名ある伊勢富回酒店の歴史を按ずるに先々代橋本藤七君の創始に成り二代目富藏翁茨城縣出身にして畢生の努力を傾注せると現代健一部君が孜孜營々以て業務黽勉旺盛を極むるに到れり。君は宮城縣宮城郡浦戸村に明治十五年五月

二日を以て呱呱の聲を擧ぐ君の産地や日本三景の首たる松島灣頭を前面に眺め大高森の嵯峨たる靈峰を雲際に仰ぎ沖津遙に眞帆白帆が朝霧を縫うて明滅する風光明媚の地に成長せる麒麟兒なり。君や祿々として漁村に終へん事を慨嘆せり。明治三十一年交志を樹て上京して二代富藏翁の許に奉公する年あり。君時勢の進運と學問が處世上一日も缺く可らざるを覺知するや早起以て孜孜として主家の爲に働き毎日の業務を了へて苦學を繼續する數歳、夜學に英漢の學を研究し以て大に斯學に達成せり。君稟性伶俐にして道義を重じ幼少より大志を抱き上京して帝都に名を揚げんとする奇童なり。奉公中克く主人に忠に同輩に信を盡したり以茲先代は夙に君の凡庸ならざるを看取するや君を以て愛嬢に娶せ伊勢富家の女婿せらしめたり。以て君の如何に辛酸苦闘主家の信任を博せるかを窺知するに足るべし君郷關を出て備に辛酸苦心を経以て我が帝都の中樞たる繁華第一の蠣殻町に於て回漕業のオソリーチとして名聲を博すると共に祖先の業を益々盛大ならしめ以て回漕界の曉星として重きを措かれつゝあり。加ふるに東海運株式會社の常務取締役として敏腕を發揮せられ、其の名譽として帝國水救濟會員或は公共事業に貢献せられ



つゝあり以て君の意圖の愉快と壯舉を祝福すべし  
君が事業の一般を擧ぐれば鐘淵紡績株式會社より銀盃を添へ感謝狀を贈呈せられたるが  
如きあり。其の謝狀や左に

謝 狀

大正二年當會社東京本社製品輸送を貴店に托してより茲に七星霜其間誠意堅實を旨とし  
些の故障なく任務を全うせられ今日に到れるは當社の多とする處なり這般輸送事務  
を直營に改め貴店と契約を解除するに當り目錄の産品を贈呈し感謝の意を表す

大正九年一月六日

鐘淵紡績株式會社 團

伊勢富回漕店主 山崎健一郎 殿

以て君の業務に熱誠にして該博なるを知るべし  
現主が先代の事業を承繼以還燦然として幾奮勵の結果築き揚げたる治績の一般と經歷を  
列擧せば

經歷及事業の一般

伊勢富回漕店主 山崎健一郎

一、創業明治初年頃先々橋本藤七の創業にして明治二十年先代山崎富藏之を繼承し明治

四拾壹年參月富藏沒後業務を繼承し今日に至る

一、營業の種類海陸運送

鐵道公認運送店、京濱市内解業

特に重量品諸機械運送拮据付組立請負

一、主なる取扱を爲したる箇所

一、明治貳拾九年頃日本鐵道株式會社海岸線建設工事材料品約參箇年に渡り運搬に従事  
す

一、明治參拾六年より參拾九年迄東京電燈株式會社千住發電所タービン全部及バブコッ  
クボイラー煙突等運送組立を爲す同社淺草發電所用石炭運送市内電柱其他倉庫間定時  
便等取扱を爲したり

一、明治參拾六七年中東京市街鐵道株式會社古石場發電所カーチススチームタービン參  
臺及びバブコッボイラー煙突等の運送組立を爲したり

一、東京電燈株式會社、柱川電力株式會社、鬼怒川水力電氣株式會社、富士瓦斯紡績會  
社、猪苗代水力電氣株式會社各變電所、日本鋼管株式會社鶴見埋築變電所、東京鋼材  
株式會社、大島製鋼株式會社、日本特殊鋼株式會社、海軍造兵廠、東京市、鐘淵紡績



株式會社及紡績製粉、製氷會社の電働裝置用發電機及變壓器の取扱を爲したり

一、明治參拾五年以降東京市街鐵道株式會社建設材料一式及市買收後引續き東京市電氣局建設材料運送に従事す

一、明治四拾參年より四拾五年迄東京市役所より荒井組受負に掛る新大橋建設橋梁材全部の運搬に従事す

一、主なる顧客

一、重量品は東京芝浦製作所製品電機變壓機等は拾數年以來運送に従事す

一、鐵道省東京鐵道管理局より大正拾年度省用鐵道枕木八拾萬挺運送契約し外各種の運送を請負契約す

一、東洋木材防腐株式會社製造防腐電柱、枕木及構内人夫等一切の取扱を爲す

一、セメントの運送は日本セメント株式會社、土佐セメント株式會社、旭セメント株式會社、豐國セメント株式會社、佐賀セメント株式會社の製品の東京に於て一手取扱を爲す外に鈴木セメント會社一部の取扱を爲す

一、大正八年拾壹月より安田善次郎氏經營の合名會社保善社との間に横須賀市公郷同一埋築土岩運送契約締結目下從事中

一、所有解船

京濱間用遠摩般三拾艘積量三千噸

東京河川用解船四拾艘積量壹千貳百噸

曳船用汽船壹艘總數四拾九噸

一、直接國稅金七百五拾圓納附

以上の成績に見るも君の精力の旺盛と奮闘と成功とを茲に謳祝して君の益々發奮斯界に健在以て雄飛せられん事を切に冀ふもの也





店主 半田 武三 君

陸軍御用貨物取扱店

中央計算部加盟店

明治運送株式會社計算部加盟店

千代田保險株式會社運送部代理店

東北本線宇都宮停車場前

鐵道省  
公認

便宜運送店

電話 四〇三番

電 零 〇 三

振替東京五三八二八番

青年志を立て、郷關を出つゝの句や之れを半田君に冠すべし。君は栃木縣河内郡國本村に明治二十九年十月二十一日を以て呱呱の聲を擧げぬ。資性着實誠直の人君小學より進んで中學三年級まで進級せるも商業に志を樹て中途退學の後ち東京市深川區に來りて木材

商に従事せられたりき。然に父君は商業に従事して半途退學を以て不可と爲し遂に父君の激怒に觸れ勘當せられたりしも不屈側ら肥料商に従事以來五ヶ年間に亘りて斯商を研究修得せる意志健實の青年なりき。後ち關西地方に志を擴げ伊勢四日市に到り運送業に従事して便宜部に身を投じて備に辛酸苦闘を爲したりき

◎運送店開始の動機 君は大正七年一月五日感ずる處あり且つ令兄の切なる懇談に因り歸郷せる折柄或る友人の勧誘と且つ自己の書籍を運送店に托送せしが頗る有利の業務なりとの感念惹起せるを以て直ちに古河驛前丸直運送店に到り三日間見習を爲して同年二月に於て現在の店舗を設け幾苦心奮闘を爲したり。然に君や宇都宮師團の御用命を蒙り大々の勉強の結果經驗の淺きが爲め遂に八千圓餘の受負を爲して大なる損害を被り万事休して令兄金太郎君に廢業を爲さん事を相談したるに慈惠と仁俠に富む令兄は武三君に對して事業經營不可なる爲か或は資金缺乏の爲に廢業せんとするかとの質問をし爲たり以故武三君曰く男兒苟も計畫せる事業の挫折を以て恥辱とせざるものあらんや。然りと雖も資金缺乏を奈何にせんやと於是乎令兄金太郎君は武三君に即時金一萬圓を惠與せら



れたり。武三君再生の思ひして再び奮闘努力を以て挽回せられたり。其の失敗の歴史を  
 緋かば君が創業當時には停車場構内或は貨車内に起臥して自炊以て奮闘なしたりき。今  
 や成功以て宇都宮、矢板烏丸驛間には法人會社の取締役監査役等の重役の位置を占むる  
 に到れり。君平素令兄を尊崇して再舉成功の恩義を感謝し居れり且つ師團よりは失敗當  
 時十五割の増金を同情せられたりと以て武三君の過已の苦闘歴史や慘憺たりと云ふべし  
 君春秋に富む好紳士なり。令閨亦た糟糠の妻として君の奮闘を助けつゝあり。店員諸君  
 も亦主人武三君の温情に感奮して忠勤を勵みつゝあり。其の便宜運送店の縁因や君の四  
 日市に於ける運送に従事せられたる記念なりと云へり。君の前途や多幸多慶ならん大に  
 敏腕を振はれん事を望むものや切なり焉



## 石井仲次郎君

東京毛織株式會社專屬荷扱店  
 大正製酒株式會社專屬荷扱店  
 スタンダード 油脂株式會社專屬荷扱店  
 日本フェルト株式會社專屬荷扱店  
 日本加工製紙株式會社專屬荷扱店  
 日本桑皮棉株式會社專屬荷扱店  
 東北本線王子驛前  
 鐵道省公認運送取扱人  
 明治運送株式會社甲種興信部加盟店

石井運送店

電話王子一〇五番  
 電略〇イシ

男子須らく意氣と忍耐とを経緯とし世に處して嶄然一頭地を抜き以て成功を爲したるも  
 の亦以愉快とすべし

石井君の先祖は播州姫路の藩士にして嚴父君は王子に名主たり所謂素封家名望家たり以



て柔道の達人たりき。以故石井君の性格が武士的典型に成人せるを窺知するに足るべし。君明治三年一月を以て府下王子町に生る。君は王子町長石井孫治郎君の分家たるも元來名望と地位とが眼中になく遂に孫治郎君と壯年當時意見衝突の結果大に奮闘以て克く青年時代東京神田神社宮司平田盛胤先生に就き神道、儒學の教訓を享けたる稟性氣概に富む義侠的快男子なり。

◎船乗となりし動機 君の父君源藏翁は巨萬の財産家として王子に於ける權威者たり以て萬事如意の位置にあり加うるに茶商として高名なり。然るに仲次郎君生來大膽にして些々たる銖錙に拘泥せざるのみ乎現今の如き赤手以て盛名を博する人なり青年時代二十圓の手付金を持ち行き貳千八圓圓の製茶を仕入たるが動機となり父君より君の商行爲が頗る亂暴なりとして明治二十三年五月十九日午前七時半に父前に呼出され同日八時前即ち三十分を俟たずして家風に叶はずとして退家を嚴命せられたりき。勝氣象なる君は飄然として無一物にして家出を爲し横濱を志し江戸屋辰五郎君の世話方鈴木久太郎君を使らんとして同日川崎に到りて渡船に際し渡船賃なく五はいの散水を爲して渡船料を免じ

られ同市淺間町の鈴木君を便りたるも一飯の食を恵まれたるのみにて遂に同市より船乗となりて横濱より廣島まで航行せり。當時君は菜葉の如き籠服にて播州に上陸し加古川まで徒歩三日間斷食せる爲め頗る空腹に堪えず附近の畑にある瓜を番人より貰ひ受け夫れを食して一時の飢を凌ぎ以て日本毛織會社に稻垣と云ふ者に君が糶日貸金あるを以て加古川に於て同人より金貳十圓を受取りたり以て遽か大身となりたると君は機械智識あるを以て同社に稻垣君より切に入社を勧められたるも夫を斥けて大阪に向へり。大阪に到りて鹿兒島の人柔道の達人石塚某を便り電氣分銅會社に入り動勉せる君は某君の推薦する儘に同市の某家に養子とはなれり。然に君の氣象は決して養子を以て一生を暮す底の人にあらず遂に養父と異見合はずして急遽歸京して品川に寄寓したり。品川に在りたる君は知人たる東京電燈會社機關長江口辰之助君と不斗も出會したり。遂に江口君の推薦を以て君は同社に入りて機械係となり擴張を擔任以て精勵努力の結果百八十名の長とはなれり。

給料問題に關し君は意見衝突の結果多數職工の爲に盡力以て君は同社を高踏勇退したり



◎陸軍砲廠に奉職の動機 君は同省より徴集令に依り同廠のマバッフコツプ釜を專任取扱を命せられ大に拔功を奏せり以て君の機械智識經驗に堪能なるを卜知すべし  
 明治二十七八年日清の役君は衆望を負うて千人長として二十七年渡清の上邦家の爲め至誠奉公を效しつゝ河沿港以來紅河塞、土壌子、連庄臺等に於て山地將軍の管下に屬して軍國の爲めに義勇を披瀝したり。以て君の慷慨に富み任侠の仁たるを證するに足るべし  
 君邦家に至誠を効せる後ち、明治二十八年結氷の海洋を航海歸朝するや再び大阪市に來りて天滿紡績會社に入り機械係として敏腕を揮ひ或は名古屋市に於て愛知電燈會社に入り或は横濱市に在りてスタンダード會社に入り石油罐の製造に従事中外人と意見衝突せるを以て轉じて武州川越電氣株式會社に入り大に信用を博したり。然に同社技師田中某が君を嫉視する事甚しく遂に君の横顔を毆打せるを以て活達なる君は遂に田中と格闘せり田中も柔道に鍊達せる剛者なり石井君も柔道に達せる人兩虎が鬪噬や悽愴を極め遂に石井君が捷利を獲たり然に非は田中に在り同町顔役たる土屋と云ふ隱居の仲裁の許に石井君は重役より慰勞金を貰ひ受け退社したり。川越にて田中と衝突の原因は大洪水に際

し機械破損の罪を石井君に嫁したるに惹起せるものなりと

君川越に在りて瀬戸物商を營みたり。然に同地有力家山崎龜次郎君、石井君の氣象に惚れ込み且つ借舎人たる關係上同借舎地内に桐の大樹十六本あるを一本僅か壹圓の安價を以て石井君に賣却して大に君の處世上に盡力せる結果壹本壹圓の桐は優に三十八圓を以て賣却して約六百圓餘の資金を得たるを以て君が在社中月給三十二圓を得たるものと併せて商業資金が増大せし關係上遂に三年六ヶ月に亘り奮闘辛酸の結果現金壹千二十八圓を所有するの幸運に達せり

機に敏なる君は心機一轉明治四十三年の頃王子町に轉住んせとして偶々知人辯護士鈴木濟美君に突然出會したり鈴木君は當時東京製紙株式會社監査役たり又た精算人として頗る義氣に富む仁なり遂に石井君に同社關係の運送人たらん事を切に勧誘せるを以て君も甘諾の上同社の專屬運送に従事せしも最初は鐵道驛運送人たるを志望せざりしが同業者の壓迫と嫉妬を受け大正四年度王子驛長土橋審通君の時代土橋君の忠告に依り公認運送取扱人たり以て現今の如き優勢の成績を呈するに到れり



辯護士鈴木君は石井君の爲に或る場合には自己所有の有價證券を提供して公認店の目的を貫徹せしめたる恩人なりと。石井君平素鈴木君の恩義を感謝し居れり以て鈴木君の義に厚く利に淡泊なる法曹家なるを知るべし。鈴木君曩に製紙會社精算人たりしも同社解散の非運を挽回して今や隆昌を呈するに到れり以て鈴木君の力ありと云ふべし。今や石井君は東京製紙株式會社より君六十一歳まで一ヶ年三百五十圓の報酬金を贈呈せられ以て其の功勞を慰藉せられつゝあり

岳父源藏翁は六十歳にして石井君川越在住の際死去せられたりき。父君永眠後直ちに弟妹に全財産を分配せるが如き君や飽まで獨立獨歩の生涯を爲したり以て君の義氣と意氣とを推諒すべし

君大正七年以來荒川沿岸に三十五噸發動機船五艘艇二艘を航行せり或は身を荷馬曳に任じて今日の成功を告げ既に荷馬車部には四十五頭の馬匹と六頭の牛を所有しつゝあり。厩舎は總檜造にして模範とすべし。君や幾幸酸を嘗め盡せる苦勞人なり優に百五十名餘の人夫を使備する如き盛況なり。殊に佛教を信仰して祖先の菩提寺たる豊島權守清光が

開基の清光寺へ父君の靈魂冥福を修する爲志堂金壹千五百圓と外に五千圓を喜捨せるが如き或は人夫に給與する印半纏の如きは優に三百枚以上を新調するが如き或は鐵道運送納金一ヶ年優に十五萬圓以上に達すの盛大を極むに到れり

君や勞働は神聖なりとの信條は君の既往に鑒みて切に痛感する處也。以故馬夫及び世話方等には清洒なる建築を爲して大に慰安を與へられつゝあり。君自ら日夕印半纏を着して鐵道構内及び牛馬の使用に注意を握ぎ常に質素儉約を旨とするも地方公共及び慈善に率先して寄附を爲すに到れり殊に王子町繁昌策として活動寫眞館の株式組織せらるゝに際し總三千株の内壹千株を進んで應募せられたるが如き美舉あり

君家庭圓滿精練の夫人花子と令嬢尙子令息正訓君あり常に綿服を纏ひ謙遜にして奢侈を避け専心男孃の成人と家道の榮を念とし十六年間酒と煙草を禁止して業務の發展を計圖せられつゝあり眞に君の如き意義ある人生の本領を實現得し居るを欣快とすべし。君勤王家新田義貞公の裔也故に徽號は其の旗印を用う以て義氣や知るべし益々健闘あれ





秋本角彌君

東京府下南千住町隅田川驛前

丸共運送店

電話淺草二七〇番

武藏野は草より出て、草に入るとは月と武藏野とは尤も深き縁因ありき。徘徊も頗る穿ちたる實景を寫出するもの也。隅田川の名や人口に膾炙する久し而も交通の利便と時勢の進運に伴ひ荒蕪たる曠野も河原も大工場と化し人家稠密にして鐵道驛には帝國有樞

なる隅田川驛の出現を見るに到れり。而も拾萬坪の構内は線路蜘蛛の巢の如く布れ今や陝隘を告げんとするの盛況を呈しつゝあり。之を二十六年以前の當時に回想せば轉た寂寞荒涼たるものなり管た月出の宵や水波洋々として絶涯より冲天せんとするを今尙見るに際し構内は高くして月が水低より躍如せんとするは如何に驛構内の地域の宏大なるかを想起せしむべし。其の廣大の構内を右に眺めて幾多の辛酸と艱難を嘗め悠然自適する人を秋本角彌君と爲す。君は茨城縣新治郡柿岡町の人、家世々農業を以てすと雖も君壯年材木商を營み奮闘力戦せしも蹉跎の後心機一轉夙に交通運輸の氣運に着眼の上四十歳の當時現在の地に貨物運送業を開始せられたり。時恰も四面茫茫たる原野にして創業既に二十六年を経過したりき。君資性溫柔にして人情に厚く一見して好人物たるを知るべし。故に君人に接するに温情物に處する熱誠加ふるに奮闘努力家たるを以て人望益々加はり家庭圓滿なるは偏に君の徳望の資なりと云ふべし。殊に隅田川驛に於ける元老として成功家として幾多の活歴史を有する元勳たり其の取扱貨物は一般的なりと雖も木材薪炭尤も多きを占む。君万延元年の出生と雖も鏗鏘壯者を凌ぎ常に店頭に在りて業務の指揮に任じ濫言以て得意や使用人に接觸しつゝあり。以故家門榮え業務盛大子孫繁く財殖え壽し以て慶賀すべきなり。君組合には幹事として功勞顯著なるのみならず公共心に厚



く帝國水難救濟會名譽會員地方公共事業に赤誠を致せる仁なり。君の如き完璧なる成功篤志家の業界に今尙存在するを欣快とすると共に君の長命を保ちて幾世久しく社會公共に業界に貢献せられん事を切に祈願するもの也



坂本八郎翁

東北本線宇都宮驛前

明治運送株式會社取引店

中央計算所加盟店

鐵道省公認

### 菊池運送店

電話 四二二番  
二四三番

菊池運送店は宇都宮驛設立當初前貴族院議員菊池君の令弟三郎君の創立せるもの、同店は明治十八年宇都宮に開業せる最も古き歴史を有する老舗たり。然に同店は不幸にも衰運に傾きたるを坂本八郎君若年にして同店員として貢献したりき。君や龍生れて昇天の



坂本太郎君

志ありの比喩の如く敏捷に富み手腕あり。遂に菊池君の切なる懇請に因り遂に同店を双肩に擔うて一意専心挽回策に汲々たり時恰も明治二十三四年の頃なりき。以て翁の奮闘精勵や想像以外に出で以て現今の如き隆盛を呈せり。坂本翁は栃木郡河内村石井村に呱呱の聲を揚けたる資性謹直勉強の仁、殊に祖父君は鬼怒川を利用して回漕



業を營み現八郎翁まで十四代の家歴を有する家柄なり翁や義氣に富み業界の耆伯として尊重せられ現に宇都宮事務所管内運送業取扱人公認組合長たり。其の名譽職としては前商業會議所議員として令名を博せり。或は地方公共に盡瘁せられたる事故擧に遑あらず或は赤十字社特別社員たり今や直接國稅七百圓以上の納稅者として實業界に雄飛する仁なり。翁の令弟坂本仲君は君の助力を以て大谷石材商の巨璧として一流の名を擅にせり之れ皆翁の義心の致せる資にして令弟が常に君を感謝し居れり。翁は日明評議員として第一部計算部議員に推薦せられつゝあり。翁の如き成功家あるを業界に欣快とし永長に後進者の爲に範模とするに足るべし。以て翁の終始一貫せる理想の實現を祝謳すべし翁の得意や想ふべきなり

令息太郎君は明治二十六年一月を以て八郎翁の尤も掬育愛撫せる掌中の玉として成人す太郎君は父君に肖て性質温良沈着克く父祖の業を遵守精勵せられつゝあり。殊に岳父君數歳に亘りて宿痾の爲に臥床中なるを以て孝順以て業務を黽勉益々盛況を呈しつゝあり太郎君は事實上父君病痾に罹りて家事及び業務を執掌し能はざるを以て今や内外に處し

寸暇寧日なき有様なり。君や父君を病中に慰藉して一方には各種の事業に参加し以て業務に勉強せられつゝあり。君の責任や重且つ大なり一層の健闘以て盛名を業界に輝されん事を。殊に太郎君は曩年早稻田實業學校卒業せる人且つ天野爲之博士の訓陶を享けたる經濟的學識を有する篤學の士なり。今や岡本驛には太郎君の名義を以て運送業支店を開始して頗る盛況を呈しつゝあり

同店勤績店員には愛知縣人淺井邦作君二十六年以上、支配人栃木縣人藤平嘉藏君二十一年以上集金係を兼務して忠勤を勵みつゝあり。業界の曉星として八郎君の奮闘史を列記し併せて令息太郎君の孝道に厚きを推稱して同家が幾久しく禎祥の滋けからん事を擱筆と共に祝福するものなり矣(斯稿大正十一年十二月中也)



## 跋

斯書は吾が帝國交通運輸界の三十六英傑傳として上梓せんとせしが殊更十二傑二十四雄傳と名命して發刊したるものなり特に十二傑及び二十四雄傳の内に於て獨り社長、支店長、店主のみの傳記肖像以外尤も密接なる關係を有する人々の傳記及び肖像を掲載したるもの也該業の性質たるや一心同體とも看るべき深き緣因や功勞ある人々の在るあり以故特に其の傳記と肖像とを揚げ以て圓滿なる所置を執りたるものなり夫れ之れを諒せられん事を尙本書は著者が感ずる處あり獨特發刊に成りたるものにして某が未だ發行せざる運輸交通界人物史とは何等關係なきを以て茲に事由を併記し置くもの也

著者 香 畝 生



大正十二年八月十八日印刷  
大正十二年八月二十日發行  
大正十三年二月二十日再版

禁轉載

著者兼  
發行人

東京市牛込區戶山町十五番地

島中惣治郎

印刷者

東京市牛込區原町二丁目十番地

片岡彌三郎

印刷所

東京市牛込區原町二丁目十番地

片岡印刷所

電話牛込二一三八番

民刑訴訟事件ハ懇切ヲ旨トシ且ツ此際大震災ニ鑑  
ミ土地家屋ノ法律關係ニ於テ地主又ハ家主ヨリ恐  
威ヲ被リ安立ヲ得ザル罹災民諸氏ハ勿論此際運輸  
交通上ニ惹起シタ訴訟事件ハ特ニ義俠的御相談ニ  
應ズ

東京市牛込區戶山町二十八番地

辯護士 高橋周藏  
辨理士

【電話牛込三七三七番】



弊所ハ大震災大火災ニ鑑ミ諸印刷ハ技術ノ精巧ト迅速鮮明ト廉價ヲ旨トシ廣ク御需用諸氏ノ爲メ勉強仕居候處此際特ニ運輸交通界ニモ御用命ヲ蒙リ度茲ニ謹而稟告仕候間多少ニ拘ラズ御用命ノ程願上候

# 片岡印刷所

所主 片 岡 彌 三 郎

東京市牛込區原町二丁目十番地  
電話 牛込 二一三八番



574  
200



終